

平成 26 年度 文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業

筑波大学「次世代の地域医療を担うリーダーの養成」

評価委員会 資料



平成 27 年 2 月

筑波大学附属病院 総合臨床教育センター

総合診療医養成事業推進支援室

目 次

1. 文部科学省 「未来医療研究人材養成拠点形成事業」について	1
1-1 採択結果	2
1-2 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント	3
2. 事業計画	4
3. 本年度の成果	6
3-1 事業運営委員会、事業推進支援室の運営	7
3-2 遠隔テレビ会議・e-learning システムの運用	9
3-3 他大学・医療機関との情報交換の実施	13
3-4 教育プログラムの運用・改善	26
3-5 本事業に必要な教育資源の整備・維持運用	29
3-6 本補助事業を紹介する web サイトの運用・研修説明会の開催	31
3-7 リサーチ支援業務の実施	37
3-8 事業評価委員会による評価と事業モニタリングの実施	39
3-9 指導医等を対象とした FD・研修会の実施	40
4. 参考資料	54
・事業成果ポスター	54
・表彰等一覧	56
5. 総合診療医養成事業推進支援室員一覧	61

1. 文部科学省 「未来医療研究人材養成拠点形成事業」について

この事業は、急速に進展する高齢化等に伴う医療課題の解決に貢献し、国内外の医学・医療の発展を強力に推進するため、以下の2つのテーマについて、新規性・独創性の高い特色ある取組にチャレンジする大学の事業を選定し支援するものです。

【テーマA】 メディカル・イノベーション推進人材の養成

本テーマは、世界の医療水準の向上及び日本の医療産業の活性化に多大に貢献するため、世界の最先端医療の研究・開発等をリードし、将来的にその成果を国内外に普及できる実行力を備えた人材（イノベーションを推進できる人材）を養成することを目的とします。

【テーマB】 リサーチマインドを持った総合診療医の養成

本テーマは、国民が将来にわたって安心して医療を受けられる環境を構築するため、地域の医療機関や市町村等と連携しながら、将来の超高齢社会における地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドを持った優れた総合診療医等を養成することを目的とします。

本学の「次世代の地域医療を担うリーダーの養成」は、この中の「テーマB：リサーチマインドを持った総合診療医の養成」に採択された事業です。

文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」の概要は、以下の通りです。

選定件数：テーマA・テーマBあわせて20～25件程度

補助金額：1件につき5千万円～2億円程度／年

事業期間：平成25年度から5年間以内（予定）

1-1 採択結果

25年度の採択結果は以下の通りです。

【テーマA】 メディカル・イノベーション推進人材の養成 10件（申請件数38件）

【テーマB】 リサーチマインドを持った総合診療医の養成 15件（申請件数59件）

【テーマB】 採択大学ならびに事業名一覧

申請担当大学名	連携大学名	事業名
東北大学		コンダクター型総合診療医の養成
筑波大学		次世代の地域医療を担うリーダーの養成
千葉大学		超高齢社会に対応する総合診療医養成事業 ～地域と大学でロールモデルを継続的に育てる仕組みを作る～
東京大学		新しい大学ー地域間連携での研究人材育成
新潟大学	新潟医療福祉大学、 新潟薬科大学	オール新潟による『次世代医療人』の養成
富山大学		地域包括ケアのためのアカデミックGP養成
三重大学		三重地域総合診療網の全国・世界発信
大阪大学		地域に生き世界に伸びる総合診療医養成事業 ～超高齢社会を切り拓くリーダー型高度医療人養成～
島根大学	神戸大学、 兵庫医科大学	地方と都会の大学連携ライフイノベーション
岡山大学		地域を支え地域を科学する総合診療医の育成
九州大学		地域包括医療に邁進する総合診療医育成 ～九州大学総合診療科を活用した総合的臨床と ヘルスサービスリサーチ教育プログラム～
長崎大学	長崎純心大学	つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築 ～人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成～
札幌医科大学		北の地域医療を支える総合診療医養成プラン
名古屋市立大学	名古屋学院大学、 名古屋工業大学	地域と育む未来医療人「なごやかモデル」
東京慈恵会医科大学		卒前から生涯学習に亘る総合診療能力開発 ～地域における臨床研究の推進を目指して～

1-2 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

採択された事業の概要等は、以下の通りです。

事業名:次世代の地域医療を担うリーダーの養成
事業責任者:医学医療系 教授/総合臨床教育センター 部長 前野 哲博
事業の概要
本事業では、次世代の地域医療を担うリーダーを養成することを目標とする。教育プログラムは、学生・研修医、後期研修医、総合診療専門医の3つの段階を通して、総合診療医としての高い専門能力・研究能力を修得するとともに、地域医療のリーダーに求められるノンテクニカルスキルも、明確な人材養成目標に向けバランスよく体系的に修得できるのが大きな特長である。実際の教育は、地域医療の第一線を担う病院・診療所に大学教員を派遣する本学独自のシステム:地域医療教育センター・ステーションをフィールドに、大学と地域が一体となって展開する。運営は、附属病院総合診療グループと総合臨床教育センターを中心に、茨城県や医師会、地域医療機関との緊密な連携の下で行う。本事業の導入により、大学-地域循環型のキャリアパスを確立して、将来の超高齢社会における地域包括ケアをリードできる、優れた総合診療医を数多く養成することを目指す。
推進委員会からの主なコメント ○:優れた点等、●:改善を要する点等
○地域医療で求められるノンテクニカルスキル(リーダーシップ、コミュニケーション能力、人材育成力等)に重点をおいたプログラムである点は優れている。 ○地域医療教育センター・ステーションによる大学-地域循環型研修システムの実績を活かしてさらに強化した取組である点は優れている。 ○段階的な体系的教育プログラムを提供するという視点は有効である。 ○研究者養成に関するプログラムも充実している。 ○事業の新規性について具体的に示されており、目標も具体的である。 ●プログラムを構成するスキル内容(臨床推論、EBMなど)が確実に習得できるよう、きめ細かい教育指導が必要である。 ●プログラムの中心は卒後教育であり、卒前の学生を対象にした教育プログラムをより多く用意してもいいのではないか。 ●学生のうちからリサーチ・マインドを教育するプログラムを構築できないか検討されたい。 ●プログラム数が非常に多いため、その進捗状況・管理についても、随時把握できる体制を構築されたい。
留意事項
●「総合診療レベルアッププログラム」は、科目等履修に該当するのか不明なため、わかりやすく明確化すること。

2. 事業計画

本補助事業の本年度の目的は、地域と一体となって未来の地域医療をリードできる人材を養成する、大学-地域循環型のキャリアパスを確立し、地域域包括ケアをリードできる、優れた総合診療医を養成するために、事業運営委員会、事業推進支援室の運営、遠隔テレビ会議システムの運用、他大学・医療機関との情報交換、教育プログラムの運用・改善、リサーチ支援業務の実施、研修施設間の指導医相互交流および合同FDの実施により、次世代の地域医療を担うリーダーを養成できる教育プログラムを本格的に実施できるシステムの構築を図ることです。

本年度の補助事業の目的を達成するため、以下を計画しました。

- ① 4月～3月 事業運営委員会、事業推進支援室の運営
- ② 4月～3月 遠隔テレビ会議・e-learningシステムの運用
- ③ 4月～2月 他大学・医療機関との情報交換の実施
- ④ 4月～3月 教育プログラムの運用・改善
- ⑤ 4月～3月 本事業に必要な教育資源の整備・維持運用
- ⑥ 4月～3月 本補助事業を紹介するwebサイトの運用・研修説明会の開催
- ⑦ 9月～3月 リサーチ支援業務の実施
- ⑧ 9月～3月 事業評価委員会による評価と事業モニタリングの実施
- ⑨ 4月～3月 指導医等を対象としたFD・研修会の実施

それぞれの具体的な内容については、以下のとおり計画しました。

- ①本補助事業の司令塔となる事業運営委員会と、その実務を担当する事業推進支援室を引き続き設置する。専任の事業コーディネーターとリサーチコーディネーター、事務マネージャー等を配置するとともに、その作業環境を充実させて、円滑に事業が実施できる体制を確保する。
- ②前年度に導入を開始したICT（情報通信技術）を活用した遠隔テレビ会議システムをさらに充実させて、本事業の教育拠点となる医療機関を結び、リアルタイムに距離を感じさせないディスカッションができる体制を整備し運用する。また、e-learningシステムを活用し、教育コンテンツをアーカイブ化してオンデマンド型のe-learning教育を実施する。
- ③総合診療医養成のための教育ノウハウ、地域医療における看護師を含む医療職の養成および多職種連携教育の実際を調査し本事業に生かすために、先進的取組を行っている他大学病院、医療施設・地域等の調査・見学ならびに情報交換を行う。

- ④総合診療入門プログラム（総合診療塾）、次世代型総合診療専門医養成プログラム、総合診療専門医フェロープログラム、大学院プログラムをそれぞれ開発し、実際に運用するとともに、プログラムのさらなる改善を図る。
- ⑤本補助事業の実施に必要な教育資材（シミュレーター、ソフトウェア、診察手技トレーニング用器材、ヘルスプロモーションの実践的スキルを学ぶための器材、参考図書など）を引き続き整備し、維持運用する。
- ⑥総合診療医を目指す学生・研修医・後期研修医、看護師を含む医療職を対象として、本事業の趣旨を広く知ってもらうとともに、本補助事業成果について積極的に情報を発信するために、ホームページを運営し、事業を紹介する動画の作成・配信などの業務を行う。また、研修説明会を開催する。
- ⑦リサーチコーディネーターを中心とした支援業務の実施、研究方法論に関する研修会への参加等を行って、リサーチ能力の向上を図る。
- ⑧本事業を定期的にモニタリングして次の改善につなげるとともに、外部評価委員を含む評価委員会を開催して、事業の妥当性、進捗状況、効果などについて評価を受ける。
- ⑨事業コーディネーター、総合診療科教員等を対象としたFDの実施や、ノンテクニカルスキルを含む研修会への参加を通して、すべての教育プログラム・コースが効果的に実施できる体制を整え、維持運用する。

これらを通じて、選定取組を更に充実・発展させ、本事業の目的である「次世代の地域医療を担うリーダーの養成」を実現できる教育プログラムの導入とキャリア支援体制の整備を図ることを計画しました。

3. 本年度の成果

前項の本年度の事業計画を実施することにより得られる具体的な成果は、以下のとおり設定しました。

- ①本補助事業を実施するための司令塔となる事業運営委員会と、その実務を担当する事業推進支援室に専任の事業コーディネーターとリサーチコーディネーター、事務マネージャー等を配置することで、円滑に事業が実施できる体制が整備される。
- ②各教育拠点を結ぶ遠隔テレビ会議システムが整備されることで、リアルタイムに距離を感じさせないディスカッションができ、施設を超えた教育ならびに連携が可能となる。また、e-learning システムが構築されていることで、教育コンテンツをアーカイブ化し、いつでもどこでも効果的な教育を受けられる。
- ③国内外で先進的取組を行っている他大学病院、医療施設・地域等の調査・見学ならびに情報交換を行うことで、総合診療医養成のための教育ノウハウが集積され、地域医療における看護師を含む医療職の養成および多職種連携教育の実際を把握することで、より質の高い教育プログラムの実施が可能となる。
- ④各教育プログラムを開発・実施し、改善していくことで、総合診療に興味を持つ学生・研修医や専攻医、専門医等に対して効果的な教育が実践される。
- ⑤本補助事業の実施に必要な教育資材が整備され、教育する側の専門的知識・教育技法の向上が図られることで、教育プログラム・コースが効果的に実施できる体制が維持運用される。
- ⑥総合診療医を目指す学生・研修医・後期研修医、看護師を含む医療職に対して本事業の趣旨およびプログラム内容が広く周知され、本事業の対象者の確保に役立てることができる。
- ⑦リサーチコーディネーターを中心とした支援業務が実施され、研究方法論に関する研修会への参加を図ることで、教員のリサーチ指導能力およびレジデント・大学院生のリサーチ能力の向上を図ることができる。
- ⑧外部評価委員を含む評価委員会を1回開催する。ここで事業の妥当性、進捗状況、効果などについて評価を受けることで、本事業を定期的にモニタリングして次の改善につなげることができる。
- ⑨事業コーディネーター、総合診療科教員等を対象としたFDの実施、ノンテクニカルスキルを含む研修会の参加等を通して、すべての教育プログラム・コースが効果的に実施できる体制が整備され、維持運用できる。

実際に得られた具体的な成果は、以下のとおりでした。

3-1 事業運営委員会、事業推進支援室の運営

平成 27 年度は、本補助事業の司令塔となる事業運営委員会と、その実務を担当する事業推進支援室を引き続き設置しました。

専任の事業コーディネーターとリサーチコーディネーター、事務マネージャー等を配置するとともに、その作業環境を充実させて、円滑に事業が実施できる体制を確保しました。これまでに事業運営委員会（総合診療医養成事業推進支援室コア・ミーティング）を 17 回、関係機関事業連絡会を 2 回開催し（開催日程ならびに主な議題は下表のとおり）、事業計画に沿った円滑な運営を実現しました。

【開催日程ならびに主な議題一覧】

事業運営委員会：総合診療医養成事業推進支援室コア・ミーティング

回	開催日	主な議題
1	4月28日	・平成25年度ノンテクニカルスキル研修の振り返り ・平成26年度ノンテクニカルスキル研修の実施について
2	5月1日	・平成25年度導入システムの稼働状況について ・平成26年度教育拠点の整備について ・教育プログラムについて
3	6月17日	・自己理解研修の実施について ・リーダーシップ&チームビルディング研修について ・ミーティングファシリテーション研修について
4	7月1日	・遠隔テレビ会議システムについて ・グループウェアの運用について ・視察について
5	7月22日	・事業の進捗状況について ・マンスリー・レビューについて ・テレビ会議システムについて
6	8月18日	・コーチング研修の実施について ・人材育成研修について
7	9月24日	・事業の進捗状況について ・予算執行状況について ・教育プログラムの実施について ・関係機関事業連絡会について
8	9月25日	・コンフリクトマネジメント研修について ・交渉術研修について

9	10月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院授業について ・教育プログラムのシラバスについて ・米国視察について
10	11月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・事業評価委員会について ・文部科学省「大学病院の現状」への掲載記事について ・予算執行状況について
11	11月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・総合診療塾について ・全国公開セミナーについて ・第2回合同公開フォーラムについて
12	11月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・忙しい人のための仕事術研修について
13	12月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度評価委員会について ・事業工程表進捗について ・MBTI研修について
14	1月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・事業評価委員会資料について ・事業進捗状況について ・第2回合同公開フォーラムについて
15	1月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決能力トレーニング研修について
16	1月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・事業評価委員会資料について ・平成27年度事業計画について
17	1月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度予算執行状況について ・平成27年度事業計画について

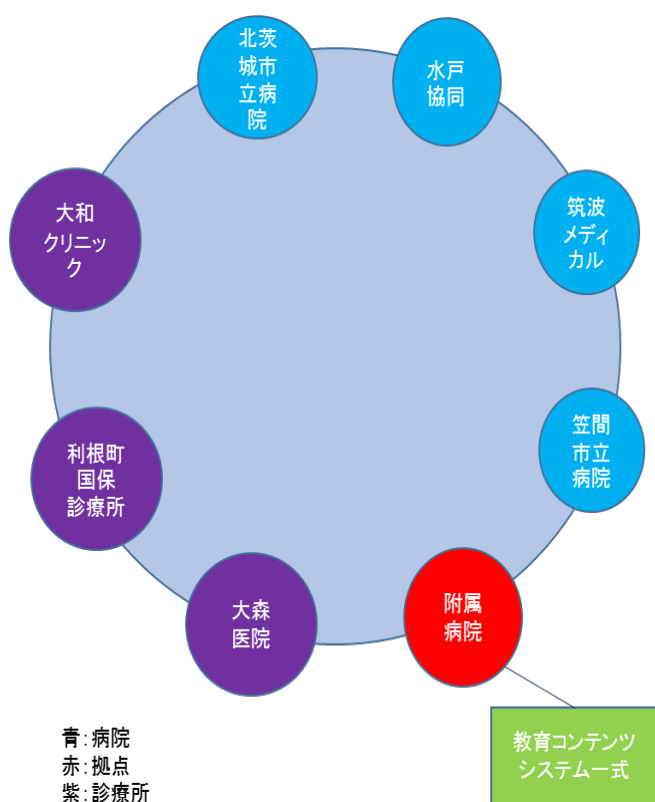
関係機関事業連絡会

回	開催日	主な議題
1	9月22-23日	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の概要について ・本事業で養成を目指す医師像（ミッション）とコンピテンシーについて ・研修目標と研修の場について ・本事業における研修プログラムと評価について ・本事業への参加者について
2	2月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度事業進捗について ・平成27年度事業計画について ・平成27年度教育体制について

3-2 遠隔テレビ会議・e-learning システムの運用

前年度に導入を開始した ICT（情報通信技術）を活用した遠隔テレビ会議システムをさらに充実させて、本事業の教育拠点となる医療機関を結び、リアルタイムに距離を感じさせないディスカッションができる体制を整備し運用しました（テレビ会議開催回数：18回）。また、e-learning システムを活用し、教育コンテンツをアーカイブ化してオンデマンド型の e-learning 教育についても、本事業で導入したグループウェア等を活用して開始しました。

【遠隔テレビ会議システム】



ネットワークの概要

- 医師不足地域を含む県内全地域で質の高い総合診療医の育成を行うため、教育ネットワークを整備する。
- これを活用して、どこにいても継続的な研修が受けられる指導体制の構築を目指す。
- おもな使用目的
 - ・多施設合同の症例検討会・遠隔講義
 - ・教育コンテンツの共同利用
 - ・レジデントの振り返り、キャリアサポート

ネットワークの構築

- すでにIBBN+TV会議システムを保有している施設はそのまま活用
- まだ整備していない病院は本事業で整備
- 診療所・小病院は、web上TV会議システム+VPNを使い、一般のパソコンでネットワークに参加するシステムを本事業で整備
- 筑波大学附属病院の持つ高機能のe-learningシステムと、豊富な教育コンテンツを簡単な操作で共有できる環境を実現

【テレビ会議システム利用実績】

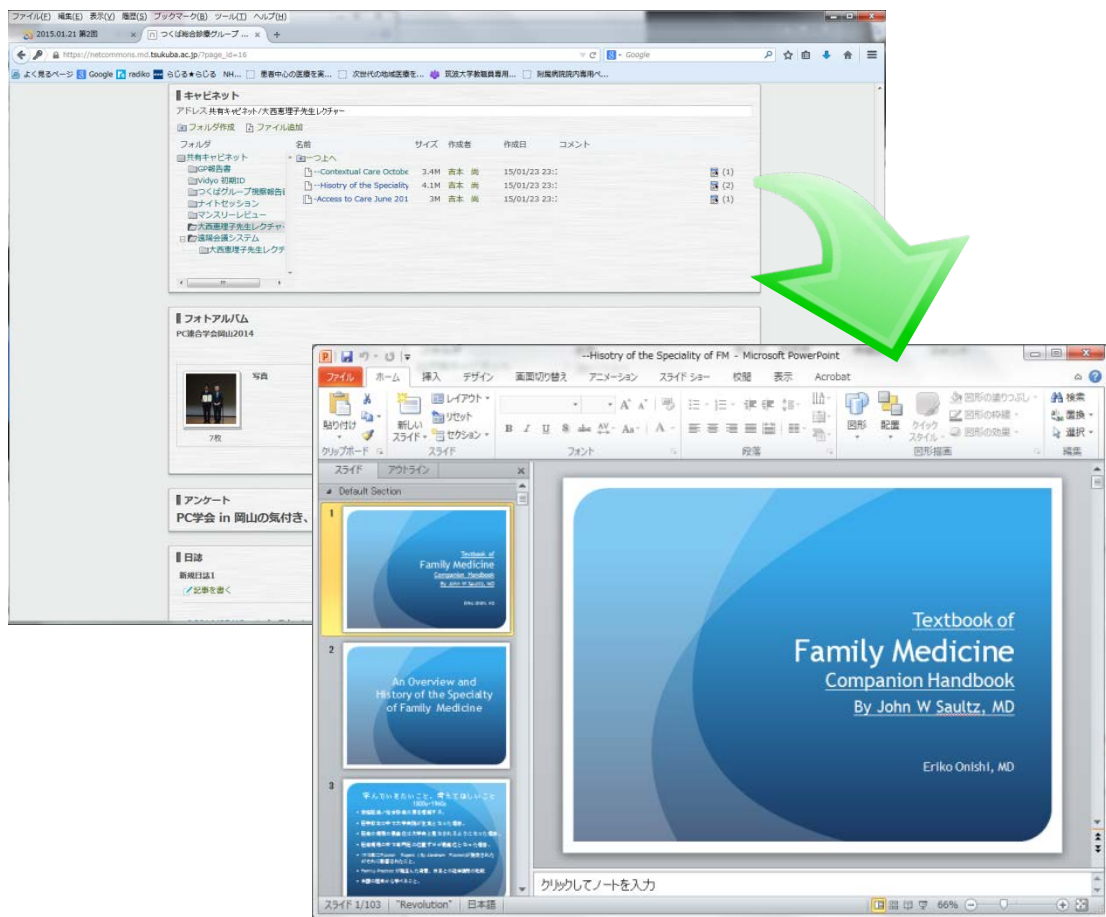
回	開催日	時間	内容	接続先
1	2014年 4月28日	19:00--20:30	GP 後期研修 コアメンバー会議	筑波大学附属病院--PC
2	6月11日	19:00--20:30	近接性レクチャー (1)	筑波大学附属病院--水戸 協同病院--PC-iPhone

3	6月13日	19:00--20:30	近接性レクチャー (2)	筑波大学附属病院--水戸 協同病院--PC-iphone
4	6月17日	19:00--20:30	ポートフォリオ会議	筑波大学附属病院--PC
5	7月15日	19:00--20:00	家族志向レクチャー &ポートフォリオ指 導	筑波大学附属病院--大和 クリニック
6	7月21日	14:00--19:00	レジデント 振り返りミーティン グ	筑波大学附属病院--大森 医院
7	7月24日	13:00--13:40	緩和医療 ミーティング	筑波大学附属病院--神戸 大学
8	9月8日	19:00--21:00	在宅医療レクチャー	筑波大学附属病院--大和 クリニック
9	9月25日	18:00--21:00	マンスリー レビュー (歯科)	筑波大学附属病院--水戸 協同病院
10	10月17日	10:00--11:00	後期研修 ミーティング	筑波大学附属病院--PC
11	10月21日	19:00--21:00	包括性 レクチャー(1)	筑波大学附属病院--水戸 協同病院--大和クリニッ ク
12	10月24日	19:00--21:00	包括性 レクチャー(2)	筑波大学附属病院--水戸 協同病院--大和クリニッ ク
13	10月24日	12:30--13:15	学生地域実習 報告会	筑波大学附属病院--PC
14	10月31日	19:00--21:00	マンスリーレビュー (ワクチン)	筑波大学附属病院--水戸 協同病院--大和クリニッ ク
15	12月4日	13:00--15:00	学術大会 GP 企画 ミーティング	筑波大学附属病院--PC
16	12月11日	18:00--19:30	総合診療塾	筑波大学附属病院--埼玉 医科大学
17	2015年 1月15日	19:00--21:00	家庭医療の歴史 レクチャー(1)	筑波大学附属病院--水戸 協同病院--大和クリニッ ク--PC

18	1月16日	19:00--21:00	家庭医療の歴史 レクチャー(2)	筑波大学附属病院--水戸 協同病院--大和クリニッ ク--PC
----	-------	--------------	---------------------	---------------------------------------

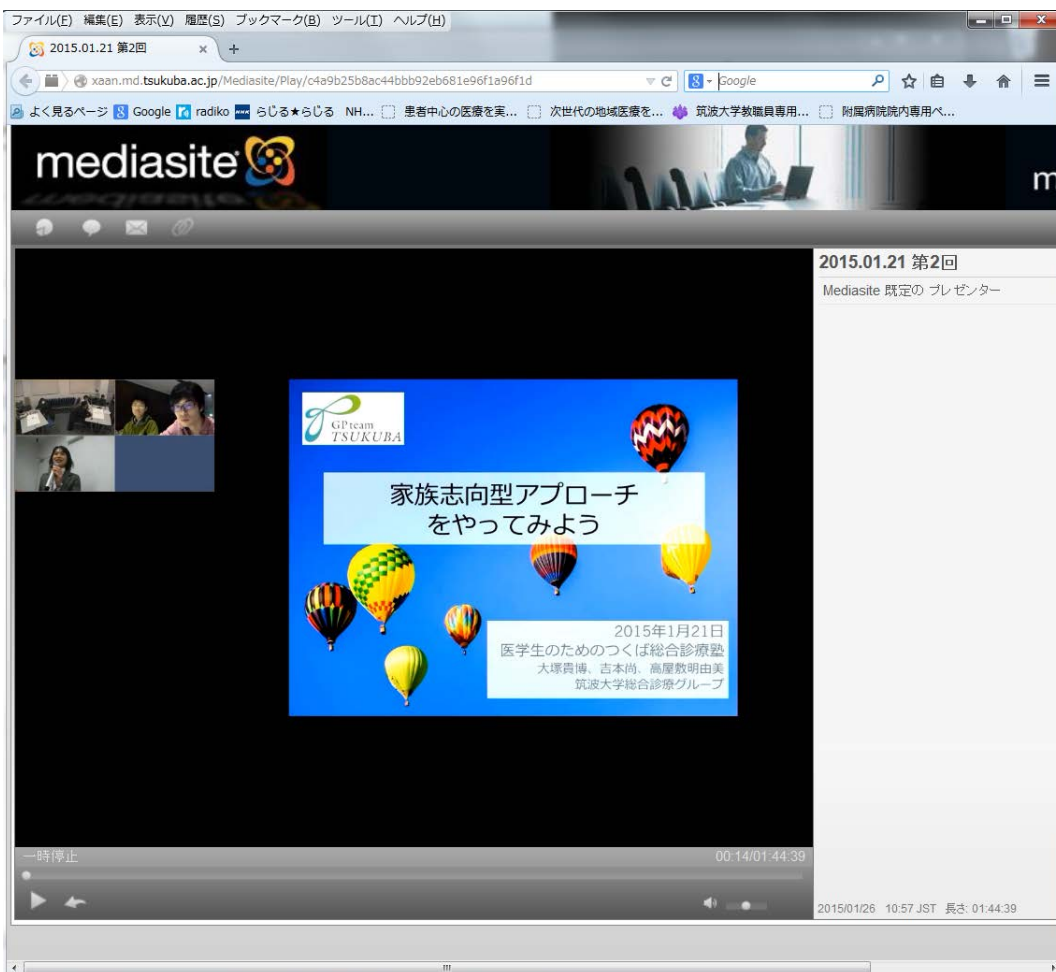
【教育コンテンツのアーカイブ化】

・ 講演資料等のグループウェア上での保管



(大西恵理子臨床教授による講演資料アーカイブの例)

・『つくば総合診療塾』の映像の公開



3-3 他大学・医療機関との情報交換の実施

総合診療医養成のための教育ノウハウ、地域医療における看護師を含む医療職の養成および多職種連携教育の実際を調査し本事業に生かすために、先進的取組を行っている他大病院、医療施設・地域等の調査・見学ならびに情報交換を行いました。日常的に行っている県内の視察はもとより、県外や海外施設も積極的に訪問し、視察件数は海外・県外だけで（予定も含め）28件を実施しました。

【海外および県外の視察一覧】

No.	出発日時	氏名	視察先名称	目的
1	2014年 4月14日	堤 円香	向日葵ホームクリニック	今後スタートするヘルスプロモーションに関する教育プログラムの開発打ち合わせのため
2	5月7日	堤 円香	有)総合健康企画 ヴィヴァン・小室 秀子先生	今後スタートするヘルスプロモーションに関する教育プログラムの開発打ち合わせのため
3	6月4日	釋 文雄	①県立宮古病院 (宮古島) ②沖縄地域医療 振興協会事務局 (那覇)	地域医療実習受け入れ先充実とその教育システムについて
4	6月6日	高屋敷 明由美	沖縄県地域医療 支援センター	沖縄県離島医療実習についての相談とその教育システムについて
5	7月20日	古谷 佳由理	聖アンソニー看護大学	CNL (Clinical Nursing Leader) ・ Advancing Nursing Leadership プログラム研修への参加と施設見学
6	7月24日	釋 文雄	利尻町国保病院	地域医療実習による学生受け入れ依頼とその教育システムについて
7	7月24日	濱野 淳	喜多方市 地域・ 家庭医療センター	公的機関でどのように家庭医療の教育、実践を行うか?
8	8月27日	大塚 貴博	①滋賀医科大学 ②あざいリハビリテーションク	①家庭医療学講座のある大学での家庭医療学の教育内容・体制、②私的機関から、行政委託を受けて

			リニック	どのような変化が生まれるか？
9	10月5日	山本 由布	北海道家庭医療センター 更別村国民健康診療所	後期研修医に対する家庭医療学の教育や振り返りの手法。有床診療所での診療体制やコメディカルとの関わりなど
10	9月27日	釋 文雄	メルボルン大学	学生・研修医教育、海外実習受け入れ依頼
11	10月2日	廣瀬知人	飯塚病院	特徴的な ER、総合診療科の運営、指導体制についての視察
12	10月22日	釋 文雄	小値賀島国民健康保険診療所	地域医療実習受け入れ先充実とその教育システムについて
13	10月30日	高屋敷 明由美	町立松前病院	地域医療実習受け入れ先充実とその教育システムについて
14	11月11日	大塚 貴博	気仙沼市立本吉病院	学生・研修医教育 被災後という特徴をどのような教育に落とし込んでいるのか？
15	11月12日	釋 文雄	公立久米島病院 (久米島)	地域医療実習受け入れ先充実とその教育システムについて
16	11月20日	高木 博	群馬家庭医療学センター	後期研修および在宅フェロー研修のプログラム内容視察
17	11月25日	久野 遥加	県立宮古病院	総合診療外来・病棟・救急外来の見学、施設見学(分娩室を含む)、訪問診療への同行
18	11月26日	大塚 貴博	揖斐北西地域医療センター	学生・研修医教育 プライマリ・ケアに必要な継続性に関する視察
19	11月27日	大塚 貴博	亀田ファミリークリニック	学生・研修医教育 家庭医療の診療範囲に関する視察
20	11月27日	高屋敷 明由美	白川村国保白川診療所	地域医療実習受け入れ先充実とその教育システムについて
21	12月12日	宮澤 麻子	あざいリハビリテーションクリニック	北茨城に新設される家庭医療センターでの研修医・学生教育の参考とするため

22	2015年 1月5日	前野哲博、小林裕幸、吉本尚、廣瀬由美	オレゴン健康科学大学	家庭医療学の教育システム、海外実習受け入れについて相談
23	1月8日	釋 文雄	与那国診療所	地域医療実習受け入れ先充実とその教育システムについて
24	1月29日	高屋敷 明由美	自治医科大学総合診療科	地域医療実習受け入れ先充実とその教育システム、地域の医療機関との連携
25	2月7日	小曾根 早知子	メルボルン大学	学生・研修医教育、海外実習受け入れ依頼 rural medical center の診療・教育システム見学
26	2月16日 予定	高屋敷 明由美	わざクリニック	学生教育システムの視察
27	3月予定	鈴木 将玄	①福井大学附属病院 ER (②福井県立病院 ER)	特徴的な ER の運営、指導体制についての視察
28	3月予定	高屋敷 明由美	湯沢町保健医療センター	地域医療実習受け入れ先充実とその教育システムについて

【国外施設の視察報告】

聖アンソニー看護大学 CNL (Clinical Nursing Leader) 研修

日時：2014年7月20日（日）－25日（金）

場所：Saint Anthony College of Nursing

Saint Anthony Medical Center

Saint Joseph Hospital (Trinity Health)

アメリカ看護協会（ACNN）認定の日本人ための CNL 夏期研修に参加した。

今回の研修は、Saint Anthony College of Nursing が日本人向けの研修を考案し、ACNN に申請、3年間限定で許可を得た世界初のプロジェクトであり、非常に注目されている。

Saint Anthony College of Nursing は、アメリカイリノイ州の北にある大都市シカゴから北西へ車で2時間ほどのロックフォードにある。



公道から OSF Saint Anthony Medical Center への案内。この敷地の中に、Saint Anthony College of Nursing もあります。

Saint Anthony College of Nursing の入り口。研修講義はほぼここで行われました。



研修前の様子です。7 時からの朝食が終わり次第、講師の先生方の講義が始まります。

筑波大学から 3 名、熊本赤十字病院の看護師 2 名、福岡国際看護大学の先生 2 名が第 1 回の CNL 研修に参加しました。

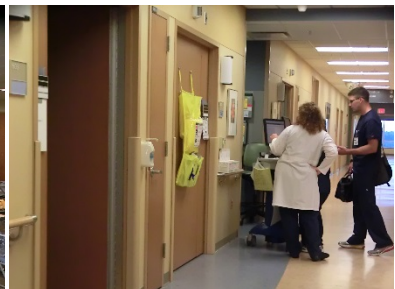
両大学間の学术交流および協力に関する協定も締結してきました。



大学から徒歩1分の位置にある OSF Saint Anthony Medical Center

CNL のシャドウイング研修は ミシガン州 Ann Arbor にある Saint Joseph Hospital で行われました。

Saint Joseph Hospital の正面で。筑波大学からの参加者3名。GP 補助金にて参加した古谷は一番左



ホテルのような病院ロビー CNL の方々とミーティング中 CNL のシャドウイング研修中

CNL の資格取得のための条件として①St. Anthony College of Nursingで17時間の講義受講、②日本における修士以上の学位があり、アメリカで認定されていること、③Web試験（アメリカのみで実施）における合格が求められている。

研修は講義とディスカッションならびに St. Joseph Hospital (Trinity Health)における CNL シャドウイングで構成された。講義の大きなテーマは「Nursing Leadership」「Clinical Outcomes Management」「Care Environment Management」「Ethic」「CNL curriculum」の5つであり、それぞれに以下の内容が含まれる。

「**Nursing Leadership**」として「Horizontal Leadership」、「Interdisciplinary communication & collaboration skills」、「Health care advocacy」、「Integration of the CNL role」、「Role integrity」、「Lateral integration of care services」

「**Clinical Outcomes Management**」として「Illness and disease management」、

「Advanced clinical assessment」、「Health prevention and disease prevention management」

「**Care Environment Management**」として「Healthcare systems」、「Healthcare policy」、「Quality Improvement」、「Healthcare Informatics」、「Team coordination」、「Healthcare finance & economics」

「**Ethic**」

「**CNL curriculum**」として「AACN End-of Program competencies」、「CNL Certification process & Q & A」

すべての講義は、その道のスペシャリストにより講義が行われ、米国における実際を知りながら、日本における CNL 導入の可能性を模索した。米国と日本との保険制度が異なるが、outcome を出すことで病院の利益に直結するという非常にわかりやすい効果検証が印象的であった。

聖アンソニー看護大学 Advancing Nursing Leadership プログラム研修

日時:2014年7月28日(月)ー8月2日(土)

場所: Saint Anthony College of Nursing

Saint Anthony Medical Center

Saint Francis Medical Center (Peoria)



医師と緩和ケア認定看護師の連携による Palliative Care Program。

熊本赤十字病院の看護師2名と筑波大学・古谷の3名の研修参加者と講師陣。

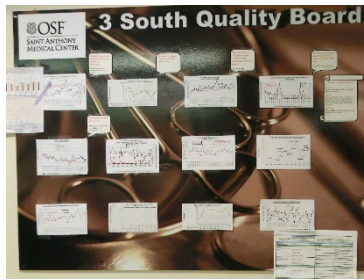
研修プログラムは以下の通り

7月28日 医師と緩和ケア認定看護師の連携による Palliative Care Program

29日 Saint Anthony Medical Center の Nurse Manager への shadowing

30日 2nd International Forum への参加

31日 Peoria へシミュレーションセンターと Saint Francis Medical Center の見学



病棟には、様々な工夫を凝らした Quality Board があり、質の見える化がされていました。また、病室には担当医療者や患者の risk 要因が一目でわかるようなホワイトボードが設置されていました。

Saint Francis Nursing of College と Saint Francis Medical Center、jump trading simulation & education center の見学



車で4時間ほどの Peoria へ

Saint Francis Nursing of College の外観

倫理家の Dr. Joseph Piccione を囲んで



Saint Francis Medical Center



小児専門部門もあります。



プレイルームのロッカー



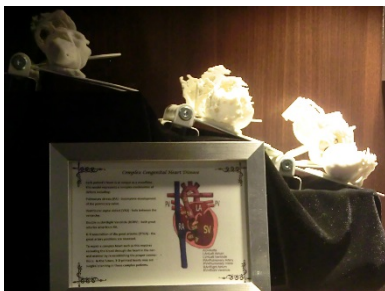
jump trading simulation & education center

アメリカは、シミュレーション教育に対する意識が高く、人員も設備も非常に充実していました。



模擬手術室

3Dプリンターや道具を用いて、専門家がシミュレーション教育に必要なものを準備しています。



3D プリンターで作られた心臓
の発生モデル

研修最終日に3名の修了式をさせていただきました。

Saint Anthony College of Nursing は、翌週から新学期が始まります。

夏休み中のプライベートな時間を使い、私たち日本人のために CNL 研修を開催してくださった、Saint Anthony College of Nursing のスタッフの皆さんの暖かさと熱意に感謝の日々でした。

【県外施設の視察報告（事業 HP 記事より）】

群馬家庭医療学センターに視察研修に伺いました！

11月21日に群馬家庭医療学センター（前橋協立診療所）に視察研修に伺いました。訪問診療を中心に、朝から夜遅くまでご一緒させていただきました。午前中は後期研修1年目の中村先生に同行し、午後是在宅フェローの関根先生と、夕方は所長の高柳先生に同行させていただきました。高柳先生が十数年来みている方の診療をみて、温かい信頼で結ばれた医師患者関係を肌で感じさせていただきました。まさに家庭医として、ともに人生を歩み、最期のときまで寄り添っていかれる姿に感銘を受けました。



夜はグループのメンバーである高崎中央病院、北毛病



院の若手の先生方とテレビ会議で振り返りに参加させていただきました。医学的な知識だけでなく SEA も兼ねていて、是非つくばでも取り入れてみたいと思いました。夜の懇親会まで盛りだくさんの一日で、本当に感謝しております！所長の高柳先生、

関根先生をはじめ群馬の皆様、ありがとうございました。北関東を一緒に盛り上げていきましょう！！

(2014年11月26日大和クリニック 高木博)

【県内施設の視察報告（事業 HP 記事より）】

カリスマ院長：大森医院の大森英俊先生

大森医院、そして私が在籍している利根町国保診療所は、どちらも長年にわたりその地域を守ってこられた院長がおり、学生実習、総合診療科の後期研修を行っています。

（後期研修医の高橋弘樹先生が、両施設を見学に行った際の報告を過去にしてくれています→）<http://soshin.pcomed-tsukuba.jp/wp/blog/archives/185>



実習する学生たちからも、毎年ベストティーチャー賞に推薦されている大森先生ですが、今回初めてお会いして、その魅力がよく分かりました。

大森医院は茨城県の中でも、特に医師不足、介護・福祉、在宅療養などが不足し、高齢化も進行し、巡回診療でないと医療を受けられないような山奥に住まわれ

る方もいるような地域にあります。その地域の中で、大森先生は患者さんたちからの要請を受けて、足りないもの（施設や交通手段）はご自分で整備して その道を切り開かれてきたとのことでした。関連の施設（特養、グループホーム、ショートステイ、小規模多機能施設など）にも案内をしていただき、大森先生 にこのほかにもたくさんのお話とご案内をしていただきました。

大森先生には、その姿や語られる言葉だけで、強く納得させられる魅力と説得力がありました。利根町診療所と地域性は違いますが、その地域の特性を反映しつつ患者さんの生活に近い医療を提供する、という院長の姿勢は、どちらにも共通していると感じました。（どちらの院長もカリスマです（笑））

また最近では、ここでの実習を経験した学生さんが医師となり、紹介先の担当医だったりもするようです。こちらの実情を理解している相手だと紹介がスムーズになったり、患者さんの安心感にもつながるとのこと。数年の歳月を経て、学生実習は確実に実を結んでいると感じました。

後期研修医の先生方には、大森医院、利根町、大和クリニックのそれぞれを知っていただき、地域により多少の違いはありつつも、根本的には同じ姿勢で患者さんや地域に向き合っているのだということが分かってもらえたらいいな、と思いました。

ぜひ一度、見学・実習に行ってみてください！（学生・研修医用のログハウス、ワインコレクションも、とっても素敵なようです！）

（2014年12月2日 スタッフ 小曾根早知子）

国立霞ヶ浦医療センター総合診療科：端山先生大活躍

端山先生はつくばの後期研修プログラムを修了された4年前に、内科常勤医が激減して病棟一部閉鎖を行うなど大変な状況であった霞ヶ浦医療センターに 総合診療科に唯一の常



勤医師として赴任しました。そして、同時期に着任された鈴木新院長らとともに、診療体制の再構築をはかろうと画策されてきました。その後筑波大学の寄付講座もはじまり、徐々に医師数が増員され、現在では消化器内科2名、循環器内科3名、呼吸器内科3名など、メジャー内科の医師体制が充実 してきました。

（正面玄関：昔ながらのたたずまいの病院です）

端山先生は毎日の初診外来を中心に、救急外来や当直業務を行っています。病棟担当は併診で5名前後、総合診療科のベッドはありませんが、端山先生の 患者さんが入院した場合には、主治医になることもあります。同院内科系は、専門科間の壁がなく、正式なコンサルテーションや併診以外についても、日常的 に、外来でも病棟でも悩ましい症例は協力して大変な時はさっと集まり対応するなど、「皆で診療を担っている」というマインドでいらっしゃるご様子でした。 その中で、幅広くなんでも気軽に相談にのってもらえる存在として端山先生は、非常に頼りにされていました。

今回の視察で印象に残ったこととして、多職種スタッフとの顔の見える連携関係がありました。病院をまわっていると、総務、検査課、放射線部門など、いたるところから、「端山先生！」と声がかかります。今まで取り組みとして、多職種スタッフと端山先生の間で企画実施した勉強会があります。当直時間 帯に時に救急現場の担い手となる事務職員対象

のAEDや挿管セットの準備について勉強会や、診療放射線技師もまじえてアナフィラキシーショック対応の講習会など、学びあう機会を積極的に作っているとのことでした。



(内科スタッフと端山先生(中央))

また、地域のニーズより訪問診療開始の準備を進めており、視察の翌週に訪問1件目が行われる予定となっていました。視察の際も、退院調整副師長と地域連携室メンバーらと準備品に関する相談する場面をみかけ、「いい医療活動をしたい」という共通の目標をもって率直な意見交換をしている様子に、互いの信頼関係は厚さを感じました。

10月からは後期研修医の伊藤慎先生が同科で研修しています。各診療科、各部門との敷居の低さを活用して小回りのきく環境で「どんなことでもまずは自分でみて、おおよそのことは対応できる」中規模病院ならではの利点を生かした総合診療の研修の場になるのではないかと思います。

おわりに、院内で周囲に頼りにされながら、生き生きと働く端山先生の姿がとても印象に残りました。[市川ファミリークリニック](#)からの紹介患者さんも入院されていて、地域の先生とも連絡をとり、実質的な病診連携が行われています。今回新たに、つくば総診グループのメンバー間で地域でのつながりがみられたことも嬉しく思いました。訪問診療開始後の益々のご活躍も期待しています。

(2014年10月24日 スタッフ 高屋敷明由美)

3-4 教育プログラムの運用・改善

総合診療入門プログラム（総合診療塾）、次世代型総合診療専門医養成プログラム、総合診療専門医フェロープログラム、大学院プログラムをそれぞれ開発し、実際に運用するとともに、プログラムのさらなる改善を図りました。

（各教育プログラムのシラバスは別冊資料として、評価委員会席上で配布予定です）

【総合診療★家庭医療 全国公開セミナーin Tsukuba 報告】

セミナーの趣旨・目的

本事業に特徴的な、シームレスな教育プログラムを作るにあたり、医学生を対象としたマーケティングを行う必要がある。このため、継続した医学生対象の学習機会である「総合診療塾」と連動して実施された。また、本事業で開発している教育内容を一部公開することで、先進的な総合診療・家庭医療の教育を提供している本学の学習コンテンツを全国に広く提供し、医学生を中心とした医療系学生同士での学びが深まると考えている。

日時：2014年11月22日（土）12:30
～18:15

場所：筑波大学附属病院 1F けやきプラザ

対象：日本全国の医学生を中心とした
医療系学生、初期研修医、その他
内容に興味のある方（主対象は
医学生、研修医）

定員：80名程度

参加費用：無料（懇親会は実費）



- セッション1. 「患者中心の医療の方法」
- セッション2. 「もっと知ろう！緩和ケア」
- セッション3. 「初期救急対応！でもここは診療所！？」
- セッション4. 「プロから学べ！多職種連携」
- セッション5. 「総合診療と初期研修、その後のキャリア」
- セッション6. 「医療面接」

（セッション1-3から1つ、4-6から1つ選択）

ワールドカフェ：「ワールドカフェ～私たちが地域で役立つためには」

学生発表セッション：「学生プレゼン～学生でもここまでやれる！」

参加者：61名（19大学の医学、看護、保健師、薬学、社会福祉、心理学生など）

講師：25名

運営スタッフとして12名の筑波大学の医学生が企画・運営

参加者の感想（一部）

- ・総合診療医についてのイメージを深めることができた。
- ・女性医師のキャリア形成のお話をきけて有意義だった。
- ・それぞれの専門職が持つ視点は様々でとても刺激を受けた。
- ・学内のみならず、総合診療に興味がある全国の仲間が増えることに大きな意義があると感じた。

【つくば総合診療塾 報告（事業HP記事より）】

第1回つくば総合診療塾「覗いてみよう家庭医の頭の中」

未来医療人GP企画・医学生のための「つくば総合診療塾」第1回セッションが12月11日の夕方に開催されました。テーマは「覗いてみよう家庭医の頭の中」です。

会場に集まった9名の医学生に加え、遠隔中継で埼玉医大から更に9名も参加くださいました。

セッションでは、診療シーン映像を見てのケース討論を行いました。

家庭医クリニックを受診した37歳の妊婦さん「1週間前からみぞおちが痛くて・・・」と相談をもちかけます。



主編：筑波大学医学部看護学専攻看護学系看護学講座、筑波大学医学部看護学専攻看護学系看護学講座
副編：筑波大学医学部看護学専攻看護学系看護学講座、筑波大学医学部看護学専攻看護学系看護学講座

医学生のための つくば総合診療塾

～探検してほしい～
家庭医療・総合診療的アプローチ トレーニングコース～

総合診療、家庭医療に興味をお持ちの医学生にむけて、将来医師として自ら立つ知識やスキルを磨きを深めたコースを開催します。今年度は2回行い、平成27年4月からは通常のコースとして開催し、1年を通しての参加により、体系的に学ぶことができます。興味のあるテーマを記入しての申込も可能です。

「皆さんに個人的な関わりができるような医師になりたい」「地域と連携医療に興味がある」という方にオススメです。医学部の方には、臨床スキルだけでなく患者さんとの関わりが広くあるようになり、医学部の方には、クリニックラウンジグループで、専業主婦に担当される人の役割や関わり方のヒントが得られるような学びにつながります。ご参加をお待ちしています。

開催案内

日時とテーマ：
第1回記念セミナー 平成26年12月11日(木) 18:00-19:30
個人に任せられるように考える「覗いてみよう「家庭医」の頭の中」
家庭医や総合診療科を受診する、心もよき患者さんに出会っているのよ！30分授業では、自分なりの「家庭医や総合診療科の関わり方」を聞いてみよう！
レクチャーとケース討論を用いたグループ討論で、家庭医のあり方・アプローチを学びます。
担当講師：総合診療科 横谷省治先生・高野聡明先生

第2回セミナー 平成27年1月21日(水) 18:00-19:30
家庭医療アプローチをやってみよう！
家庭医療が身近な存在として理解することの重要性。その際、地域にどのように対応したらよいのか？具体的なケース討論で、患者さんや家族へのアプローチの実際を体験します。将来どんな医師になっても役立つ知識を身につけてみましょう！
担当講師：総合診療科 横谷省治先生・高野聡明先生

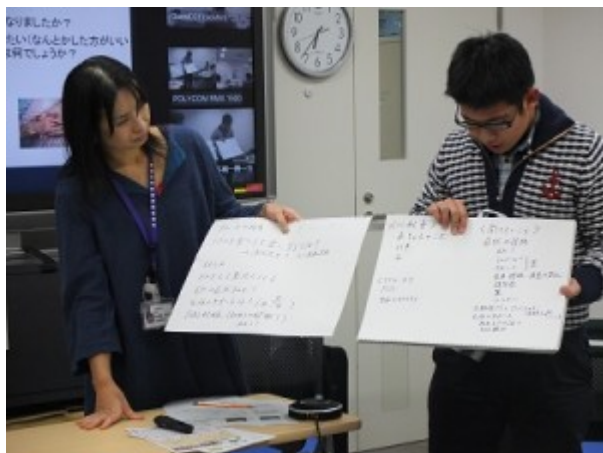
対象者：医学生全学年（筑波大学以外も可）
参加費無料・申込必須（空席がある場合に限り、当日参加可）

場 所：筑波大学附属病院 地域医療システム研究棟2階 討論室
※ 申し込みは、各開催日の1週間前まで以下にお知らせください。
筑波大学附属病院 総合診療科 地域医療支援室
〒305-8585 茨城県つくば市 電話：029-853-3333（担当：早川・桂葉）
E-mail: shirayama@hokushin.jp 医療部、地域と連携推進課までお問い合わせください。

さあ、そこで家庭医はどんなことを考え、どんなアプローチをするのでしょうか。

グループ討論、全体共有を行った後に、家庭医 横谷省治先生によるロールプレイ（診療のデモンストレーション）がありました。

全体共有



胃の痛みについて話していた患者さんが、「仕事も家もいろいろあって・・・」と話をそらしたタイミングに、患者さんの背景にぐぐっとアプローチ。「疲れて動けない、おなかに赤ちゃんがいるのに自分のことで精いっぱい」とうつむく患者さんに、「とても疲れていらっしやるんですね。〇〇さんにとってどんな状況が理想なんでしょうね・・・」と優しいまなざしで尋ねかけます。すると、「理

想・・・（しばらく沈黙）赤ちゃんを迎える準備を楽しみたいって思っていました。そんなことしばらく忘れていました（涙ぐむ）」

このようなやりとりを通して、自分のつらさの中で堂々巡りになっていた患者さんが前をむき、「一人で悩まずに家族にも相談してみたい」と、次の一步をふみだすきっかけになりました。

ロールプレイの後のレクチャーでは

「家庭医は患者さんの人生の旅の帯同医」

「つらいときも、幸せな時も患者さんによりそえることが、家庭医のやりがい」

との話に、学生の皆さんは非常に熱心に聞き込んでいました。

家庭医の魅力が、具体的にイメージしていただけたようです。

今回は、1月21日（水）18時から、大塚貴博先生による「家族志向型アプローチをやってみよう」です。まだ空席はありますので、お申し込みをお待ちしています！

詳細はこちらへ

http://www.hosp.tsukuba.ac.jp/mirai_iryu/pdf/20141211_soshin-jyuku.pdf

（2014年12月26日 スタッフ 高屋敷明由美）

3-5 本事業に必要な教育資源の整備・維持運用

本補助事業の実施に必要な教育資材（シミュレーター、ソフトウェア、診察手技トレーニング用器材、ヘルスプロモーションの実践的スキルを学ぶための器材、参考図書など）を引き続き整備し、維持運用しました。

【大学ならびに地域教育拠点への導入参考図書等一覧】

No	書籍名
1	新・総合診療医学（病院総合診療医学編）
2	指導者のための介護予防完全マニュアル
3	介護予防完全マニュアル（続）
4	家族志向のプライマリ・ケア
5	治療増刊「しまった!」を役立てる
6	日本プライマリ・ケア連合学会基本研修ハンドブック
7	外来でのコミュニケーション技法—診療に生かしたい問診・面接のコツ（junior 新書）
8	外来での行動医療学—患者さんのライフスタイル改善を目指して
9	帰してはいけない外来患者
10	新・総合診療医学（家庭医療学編）
11	マクウィニー家庭医療学 上巻
12	3ステップ実践緩和ケア
13	トワイクロス先生の がん患者の症状マネジメント
14	トワイクロス先生のがん緩和ケア処方薬：薬効・薬理と薬の使い方
15	Excel でできるらくらく統計解析 増補版
16	医学がわかる疫学
17	数学いらずの医科統計学（第2版）
18	医学的研究のデザイン（第3版）
19	これから論文を書く若者のために 大改訂増補版
20	地域医療テキスト 自治医科大学 編
21	診療所で教えるプライマリ・ケア—地域で医師を育てるために
22	現代の医学的研究方法 質的・量的方法 ミクストメソッド、EBP
23	臨床疫学—EBM 実践のための必須知識
24	基礎から学ぶ楽しい疫学 第3版
25	臨床研究の道標(みちしるべ)—7つのステップで学ぶ研究デザイン

26	査読者が教える 採用される医学論文の書き方
27	SPSS で学ぶ医療系データ解析—分析内容の理解と手順解説、バランスのとれた医療統計入門
28	SPSS で学ぶ医療系多変量データ解析—分析内容の理解と手順解説、バランスのとれた医療統計入門
29	心理学マニュアル 質問紙法
30	医学教育の理論と実践（篠原出版）
31	事例から学ぶはじめての質的研究法 医療・看護編（東京図書）
32	事例から学ぶはじめての質的研究法 教育・学習編（東京図書）
33	ライブ講義・質的研究とは何か（SCQRM ベーシック編）（新曜社）
34	ライブ講義・質的研究とは何か（SCQRM アドバンス編）（新曜社）
35	統計学が最強の学問である
36	リサーチ・クエスチョンの作り方
37	内科主訴 25 の確定診断術
38	聞く技術 答えは患者の中にある 第二版
39	いのちつぐ「みとりびと」（全4巻）
40	からだの地図帳
41	病気の地図帳
42	Teaching and Learning Communication Skills in Medicine Second Edition
43	TEXTBOOK OF FAMILY MEDICINE THIRD EDITION

3-6 本補助事業を紹介する web サイトの運用・研修説明会の開催

総合診療医を目指す学生・研修医・後期研修医、看護師を含む医療職を対象として、本事業の趣旨を広く知ってもらうとともに、本補助事業成果について積極的に情報を発信するために、ホームページを運営し、事業を紹介する動画の作成・配信などの業務を行いました(2014年度ブログ掲載件数96件)。また、研修説明会をこれまでに2回開催しました。

(作成したパンフレット類は、別冊資料として当日配布いたします)

【広報・HPでの情報発信状況(ブログタイトル一覧)】

No	掲載日	ブログタイトル
1	4月11日	night session スタート!
2	4月15日	新年度の研究メンバー!
3	4月15日	筑波大学総合診療グループ 説明会(懇親会)のお知らせ
4	4月18日	第2回ナイトセッション:生物心理社会モデル(Biopsychosocial Model: BPS)について
5	4月23日	ウェルカムセミナーのコンセプト
6	4月23日	とことん話そう!つくば式ワールドカフェ
7	4月24日	第3回ナイトセッション!
8	4月24日	ウェルカムセミナー2日目!
9	4月30日	朝勉強会、毎朝やっています
10	5月1日	筑波総診プロモーションビデオ
11	5月9日	[再掲]総合診療グループ研修説明会・懇親会
12	5月9日	PC 連合学会 2015 のポスターできました!
13	5月13日	研修ステーション、大和クリニックの見学
14	5月14日	高木 博先生 優秀論文賞(英文誌)受賞
15	5月20日	伊沢先生の研修修了式
16	5月21日	モーニングレクチャー ~USPSTF を活用したヘルスマンテナンス~
17	5月22日	【6/14開催!ぜひご参加ください!】つくば家庭医・病院総合医プログラム説明会
18	5月22日	利根町国保診療所に行ってきました!
19	5月30日	医学生の院外実習
20	6月2日	産業保健研究会(通称:さんぽ会)の月例会(2014年5月29日)に参加して
21	6月2日	WONCA asia pacific conference 2014に参加!

22	6月3日	利根町診療所に行ってきました。
23	6月6日	水戸協同病院へ見学に行ってきました
24	6月9日	稲葉先生大学ローテ修了
25	6月11日	Family Medicine のフィロソフィー (前半) @モーニングレクチャー
26	6月18日	大西先生のセミナー開催！ Principle of Family Medicine “Access to care”
27	6月20日	神栖市での健康教室を実施！
28	7月3日	大森医院に行ってきました。
29	7月4日	医学2年生 在宅ケアコース実施しました (大和クリニックの事例)
30	7月9日	舛本先生・大島先生送別会
31	7月16日	論文の書き方の基本
32	7月22日	筑波大学総合診療グループ 2014年度第2回後期研修プログラム説明会
33	7月24日	EBM 講座～ナイトセッション
34	7月30日	総合診療グループブログをリニューアルしました
35	8月4日	～2014年度第2回後期研修プログラム説明会～
36	8月18日	チームビルディング&リーダーシップ研修
37	8月18日	水戸協同病院に行ってきました！
38	8月18日	第46回日本医学教育学会大会に参加しました！
39	8月19日	ナイトセッション～臨床倫理～が開催されました！！
40	8月19日	大学院地域医療教育学分野の栗原 宏先生が学位を取得されました！
41	8月20日	「市川ファミリークリニック」開院
42	8月25日	市立宇和島病院の山内先生が4日間見学にきてくれました！
43	8月25日	学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー@湯河原
44	8月29日	前野哲博先生と後期研修医との対談が行われました！
45	9月1日	MKSAP@水戸協同病院
46	9月1日	北茨城市家庭医療センター開設へ！
47	9月2日	2013年度 筑波総合診療グループの年報が出来上がりました！
48	9月4日	徳田回診@水戸協同病院
49	9月4日	フランク先生の英会話教室に参加しました
50	9月5日	利根町国保診療所長による、プライマリ・ケア論
51	9月5日	BBQ!!
52	9月10日	企業のファミリーデーでタバコの話をしてきました
53	9月10日	大森医院・利根町国保診療所に行ってきました
54	9月12日	北茨城市で健康の話をしました

55	9月22日	レジデント・デイ
56	9月22日	第2回後期研修説明会を開催しました！
57	9月24日	ノンテクニカルスキル研修～TEAMS-BI～
58	9月25日	翻訳本 出版！！がん告知そして家族が介護と死別を乗り越えるとき
59	9月29日	小曾根先生と浜野先生の論文が掲載されました！
60	10月7日	人への接し方研修 TEAM-BR が開催されました！
61	10月8日	アルコール関連問題学会で、学会賞（河野裕明記念賞）受賞！
62	10月11日	利根町に新メンバーが来ました！
63	10月16日	斎藤さやか先生の論文がパブリッシュされました！
64	10月16日	大和にも新メンバーが来ました！
65	10月20日	「総合診療★家庭医療全国公開セミナー in Tsukuba」開催のお知らせ
66	10月20日	東端先生の日
67	10月21日	吉本尚先生「明日の象徴」の授賞式の様子が大学HPにも
68	10月21日	浜野 淳先生 優秀ポスター賞を受賞
69	10月24日	国立霞ヶ浦医療センター総合診療科：端山先生大活躍
70	10月27日	新医学専攻で研究された梶川奈月さんの論文がパブリッシュされました！
71	10月28日	中澤先生の論文が雑誌に掲載されました！
72	10月30日	医学3年生の健康教育の実習@日立市での喫煙予防教育
73	10月31日	薬剤師向けの身体診察研修会を
74	11月4日	マンスリーレクチャー「みんなのワクチンプラクティス」
75	11月5日	弘前大学でのEBMの講義
76	11月7日	つくば総診秋季セミナーを開催
77	11月26日	群馬家庭医療学センターに視察研修に伺いました！
78	11月27日	ニッセイ財団の研究助成の成果報告を聞いてきました
79	11月28日	セッション～プロから学べ！多職種連携～
80	12月1日	ナイトセッション～バッドニュースの伝え方～
81	12月2日	カリスマ院長：大森医院の大森英俊先生
82	12月2日	家庭医療★総合診療全国公開セミナーin Tsukuba
83	12月5日	家庭医療★総合診療全国公開セミナーin Tsukuba「患者中心の医療の方法」
84	12月11日	2014年度つくば総合診療グループ大忘年会開催！！
85	12月13日	つくば市立柳橋小学校にて健康教室開催！（2014年12月13日）
86	12月17日	11・22救急セッション「初期救急対応！でもここは診療所！？」
87	12月18日	つくば市吉沼小学校での食育教室（2014年12月18日）
88	12月18日	【コラム】うわさの『おやつマスター認定証』

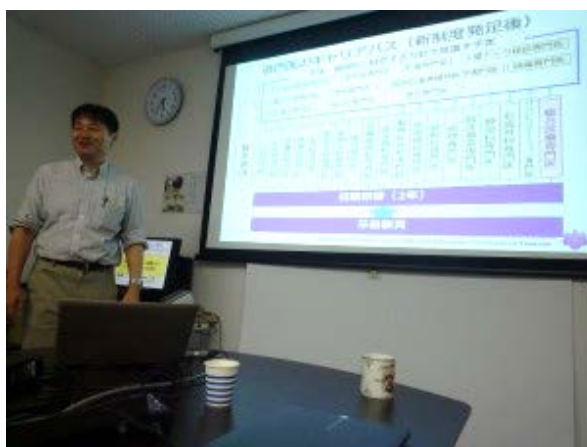
89	12月26日	第1回つくば総合診療塾「覗いてみよう家庭医の頭の中」
90	12月31日	軽野東小学校での喫煙予防教育（2014年12月11日）
91	1月13日	ナイトセッション 1月8日 臨床倫理
92	1月15日	“Family Medicine History in America”
93	1月19日	笠間市で慢性腎臓病予防教室を行いました（2015年1月19日）
94	1月20日	大西先生レクチャー ～Family Medicine History in America～
95	1月22日	植松小学校での喫煙予防教室（2015年1月22日）
96	1月23日	2015年つくば総合診療グループ教育セミナーのご案内

【研修説明会の開催（事業 HP 記事より）】

第2回後期研修説明会を開催しました！

9月15日に第2回後期研修説明会を開催しました。

当日は祝日にも関わらず、院外あるいは県外からも研修医の先生が来てくださって、夜の懇親会までみんなで盛り上がりました。



今回はちょっと工夫して、我々からの一方的な説明会にならないように、現役レジデント・スタッフを交えて小グループで総合診療のキャリアについて相談できるようにしました。どのグループも話が時間が足りなくなり、なんだか昔NHKでやっていた「真剣10代しゃべり場」みたいに熱かったです。



筑波大学総合診療グループでは、2015年度の後期研修プログラムの募集が始まっています。

随時受け付けておりますので、いつでもご連絡ください。

是非われわれと一緒に「なりたい総合医」になりましょう！

<http://soshin.pcmed-tsukuba.jp/training/specialsite/recruit.php>

また、医学生や研修医の先生の見学も随時受け付けております。
こちら、見学者の希望や日程の都合にあわせて、各施設と調整いたしますのでお気軽にご連絡ください。

(2014年9月22日 大和クリニック 高木博)

2015年つくば総合診療グループ教育セミナーのご案内

つくば総診では、総診について学ぶためのセミナーとして、年3回（4月、9月、2月）の定期的なセミナーを開催しております。今回は、今年度最後となる2月の教育セミナーのご案内をお送り致します。セミナーの対象は主に総診の後期研修医ですが、総診に興味がある学生、初期研修医から指導医まで幅広くご参加頂いております。

今回は、日常診療に必要なコモンディジーズや主治医意見書作成についてのレクチャー、また、家庭医専門医模擬試験と題するCSAを予定しております。

レクチャーは、生活習慣病のアップデート総ざらい、排尿障害への対応、消化器疾患への対応について、後半では主治医意見書作成の仕方についての講演となります。講師は、筑波メディカルセンター病院泌尿器科及川剛宏先生をお招きし、また、総合診療グループより、水戸協同病院総合診療科木下先生、筑波メディカルセンター病院在宅ケア事業部有田圭介先生に依頼し、コモンディジーズへの理解を深めます。また、筑波大学病院総合診療科浜野淳先生に依頼し、なかなか教わる機会のない主治医意見書の書き方についても学びます。明日への診療にきっと役立つことと思います。

また、CSAは家庭医専門医が作成した3症例で、診療所・病院どちらでも経験すると思われるシナリオを用意しており、主治医意見書の作成も行います。模擬患者にもご協力いただき、家庭医専門医試験の雰囲気を感じつつ、実践的で、普段の診療のスキルを確認できる良い機会となっております。

その他、レジデント終了セレモニーで、筑波総診の後期レジデント修了者のプレゼンテーションも予定されています。後期研修の雰囲気も掴めると思います。

=====

日時：2015年3月1日（日）9時30分～16時30分

場所：筑波大学医学専門学群 学群棟4A411

参加費：無料

タイムテーブル

9：30～受付開始

10:00～12:10 レクチャー「生活習慣病総ざらい、排尿障害、消化器疾患」
12:10～13:10 昼食（ケータリング） & レジデント修了セレモニー
13:10～15:40 CSA「家庭医専門医模擬試験」（3 症例 CSA+主治医意見書作成）
15:40～16:00 レクチャー「主治医意見書の書き方」
16:00～16:30 まとめ
16:30 片付け・解散

=====

参加希望者は、 soshin@md.tsukuba.ac.jp へご連絡をお願い致します。

皆様、奮ってご参加ください！！

(2015 年 1 月 23 日 2015 年教育セミナー担当 代表 五十嵐淳)

3-7 リサーチ支援業務の実施

リサーチコーディネーターを中心とした支援業務の実施、研究方法論に関する研修会への参加等を行って、リサーチ能力の向上を図りました。

【リサーチセミナーの開催状況】

No	日時	内容
1	4月11日	2014年度キックオフ。シラバス説明・自己紹介
2	4月18日	研究指導
3	4月25日	研究指導
4	5月2日	研究指導
5	5月16日	研究指導
6	5月30日	研究指導
7	6月13日	研究指導
8	6月20日	研究指導・レクチャー（エクセル講習会）
9	6月27日	研究指導
10	7月11日	研究指導
11	7月12日	臨床研究ワークショップ「論文の書き方の基本」
12	7月25日	研究指導・1学期振り返り
13	9月12日	研究指導・レクチャー（科研の取り方講座）
14	9月19日	研究指導
15	9月26日	研究指導・レクチャー（論文の読み方1）
16	10月3日	研究指導
17	10月10日	研究指導
18	10月17日	研究指導
19	10月31日	研究指導・レクチャー（論文の読み方2）
20	11月7日	研究指導
21	11月14日	研究指導
22	11月28日	研究指導
23	12月5日	研究指導
24	12月12日	研究指導
25	12月19日	研究指導・2学期振り返り
26	1月9日	研究指導
27	1月16日	研究指導
28	1月23日	研究指導

29	1月30日	研究指導
30	2月6日	研究指導（個人面談）
31	2月20日	研究指導
32	2月27日	研究指導
33	3月6日	研究指導・レクチャー（論文の読み方3）
34	3月13日	研究指導
35	3月20日	研究指導・3学期振り返り



（指導風景（左写真の右側、右写真の正面奥がアドバイザーの佐藤幹也先生））

3-8 事業評価委員会による評価と事業モニタリングの実施

外部評価委員を含む評価委員会を1回開催しました。ここで事業の妥当性、進捗状況、効果などについて評価を受けることで、本事業を定期的にモニタリングして次の改善につなげることができます。

(挿入資料『筑波大学「次世代の地域医療を担うリーダーの養成」

平成25年度評価結果と指摘事項への対応(平成26年度)』参照)

筑波大学「次世代の地域医療を担うリーダーの養成」平成25年度評価結果と指摘事項への対応（平成26年度）

委員・推進室員名 (敬称略・順不同)	本事業に関する評価及び助言（平成25年度）	対応（平成26年）
大崎 信子	<p>・昨今の庶民の願いは、「今住んでいる所で、安心してくらしたい」です。この事業は、そんな願いを実現させる地域社会づくりに大きく貢献する事業であると感じました。</p> <p>・事業のリーダーを養成するという目標の評価は、一番むずかしい点ですが、年度毎の数値が明らかにならされている点が良いと思います。人数だけでなく、リサーチコーディネーターとして、かかわってこられた地域の評価もわかると楽しいです。（これは5年後？）</p> <p>・さまざまな事ですが、<u>総合診療専門医</u>という言葉はわかりにくいです。</p> <p>感想：委員会に参加させていただいて、大変勉強になりましたが、当日配布の資料を見て、説明を伺い、理解をするというのには大変むずかしかったです。</p>	<p>「今住んでいる所で、安心してくらしたい」というご期待に応えられる事業にするために、努力してまいります。</p> <p>地域での評価についても事業の進捗と並行してリサーチを行うことで、その成果を明らかに行っているよう取り組みたいと考えております。</p> <p>また、平成26年度は事前に評価資料にお目通しいただけるよう、主要な資料を事前配布いたしました。</p>
小松 満	<p>茨城県は医療事業者の非常に少ない県であり、今後2025年に向けて大変心配な状態である。</p> <p>病院完結型の医療から地域完結型の医療への流れはもはやとめることはできない。</p> <p>本県においては医師不足を補うためには総合医の養成は必須のこととされている。</p> <p>本事業においては、茨城県医師会はもちろんの事、地域と一体となって、地域医療を担う人材を養成することであり、ぜひ推進して欲しい。</p> <p>日本医師会が積極的に総合診療医の養成を支持しないのは、地域のかかりつけ医の存在をおびやかすのではないかと会員が不安を代弁しているものである。</p> <p>総合診療医とかかりつけ医が共に地域医療に貢献していくシステムを構築して欲しい</p>	<p>医療過疎が特に問題となっている県北地域では、北茨城市を通して医師会と共に人材養成を推進していくことが決まりました。</p> <p>また、この6月には、日本プライマリ・ケア連合学会学術大会の開催を担うことが決まっております、その中で本GPに関連する企画も実施されます。県内の医師会会員の皆さまにも、総合診療について知っていただける絶好の機会を提供できることとなりました。一人でも多くの先生方にご参加いただければと期待しております。</p> <p>地域の第一線で活躍される先生方から、ご助言ご支援をいただけるような、地域に根差した事業運営を進めていきたいと考えております。</p>
軸屋 智昭	<p>盛りだくさんなプログラムで、達成するのは大変だろうと思いますが、頑張ってください。</p> <p>最先端に行くプログラムで、それによって育てられる人材は貴重です。</p> <p>この人材を活用するための基盤を耕す(教育)対策もぜひ含めて頂ければよろしいと思います。</p>	<p>全国的にも充実した組織を持つ筑波大学の総合診療グループが本事業に取組める強みを生かし、全国の医学生を対象とした「公開セミナー」や、「総合診療塾」を実施してまいります。</p> <p>今後も、地域医療に貢献できる人材を一人でも多く養成できるように取り組んでまいります。</p>

<p>丸山 泉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画が練られており、かつ、現状の進捗状況も明確となっており評価できる。 ・事業内容が公開されていると同時に、評価委員の構成も医師以外の方が入っており、広範囲な視点で、外部評価ができていいることがよい。 ・評価委員への事業説明も十分になされている。 ・実績を考えても今回の「次世代の地域医療を担うリーダーの養成」事業全体をけん引することを期待している。 	<p>今年度は、本事業のコーディネーターとして7月から吉本講師が赴任して、「明日の象徴」という名誉ある賞を受賞し、大阪大学で開催された第2回合同公開フォーラムにおいても、吉本講師のプレゼンテーションに会場の大きな期待が示されたところでした。</p> <p>文部科学省で作成されたパンフレット「大学病院の現状」にも、本学の取組が取り上げられ、文科省内、大学院病院関係者、財務省、国会議員の皆さまにも本事業の意義を知っていただくことができました。</p> <p>今後も、事業全体をけん引する気持ちを持って進んでまいります。</p>
<p>前野 哲博</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筑波大学は、これまでも独自に総合診療医の養成に取り組み、数多くの専門医を送り出してきた実績を有しているが、本事業に採択されたことにより、さらなるレベルアップが期待できる。 ・専門医取得のための後期研修プログラムの充実だけではなく、本事業により、学生向け、専門医向け、看護師向け、看護師向けのプログラムを大幅に強化することが期待される。 ・特に、本事業により大学の持つ教育研究機能、地域医療機関とのネットワークを生かした教育環境の充実を図ることができれば、リサーチマインドを持ち、将来の地域医療のリーダーとなる優秀な総合診療医を多数輩出できるものと思われる。 ・本年度は初年度と違うこともあり、特に研修プログラムなどのソフト面についてはまだ十分とは言えない。来年度は教育フェイルドの整備および具体的なカリキュラム開発に取り組みとともに、広報にも力を入れて、本事業に参加するtraineeの増加を図るべきである。 	<p>本事業の開始により、関係機関事業連絡会を持つことができたことや、グループ構成員の県内関係機関(教育フェイルド)の視察などにより、大学と地域の教育フェイルドのつながりが有機的なものとなってきました。また、北茨城家庭医療センターの設置が決まるなど、地域における教育フェイルドの整備を進めることができました。これらの成果が、学生の地域医療の実習や研修医の院外研修等に反映されることで、本事業が目指す大学と地域の両方で学ぶシステムの全体像も見えてきました。</p> <p>また、総合診療塾およびフェロープログラム、大学院プログラムのシラバスもほぼ完成し、次年度から実際に募集を開始できる見通しとなっています。</p> <p>広報に関しては、ホームページやSNSなどでも積極的な情報発信を続けています。その結果、本事業で主催するセミナーには多くの学生・レジデントが参加し、来年度は6名の後期研修医、5名の大学院生を新たに確保することができました。</p> <p>来年度以降も、こうした動きがさらに大きく進展するよう、取り組みを続けていきます。</p>

<p>瀬尾 恵美子</p>	<p>・「次世代の地域医療を担うリーダーの養成」事業の合同公開フォーラムは、採択されたすべての取組みを比較でき、とても良い内容であり、参加者も多く、非常に成功であったと思います。</p> <p>・数字目標達成のためには、事業推進室支援室ははがなければならないと大変です。</p>	<p>今年度は、専任の事業コーディネーターが着任したことから、関係者への助言も、専門的などころまで踏み込んで行えるようになったことから、工程表に示した目標を量的なものだけでなく、質的にも達成していける体制を構築してまいりました。</p> <p>さらに、事業推進支援室の活動を大幅に強化することができ、事業運営委員会にあたる推進支援室コア・ミーティングも今月末までに17回開催し、事業進捗を管理してきました。</p>
<p>濱野 淳</p>	<p>事業計画は素晴らしいので、今後は、実行に移すための準備を進めていくことが必要と感じました。多くの若い医師が成長できるシステム、インフラ作りを期待しています。同時に事業計画を遂行するためには、教育体制を担う指導者の育成、確保も重要と感じております。</p>	<p>本事業を通して、本学での総合診療医養成のシステムを多くの方に知っていただける機会となったのは、全国の若い研修医に関心を持ってもらう意味で、今年度の大きな収穫でした。</p> <p>一人でも多くの若い医師に、茨城県で活躍し続けてもらうよう、北茨城で開始したような、魅力ある地域医療フィールドの構築にも貢献していければと考えています。</p>

水野 道代

本事業は、総合診療医の養成において確かな実績を持つ、筑波大学附属病院総合診療グループと総合臨床教育センターを基盤に運営されている。すでに整えられた運営体制の上に、さらに新たな視点を加え、地域医療のリーダーとなれる優れた総合診療医の養成充実を目指しているものであり、ゆるぎない成果が期待できる。特に、次世代の地域医療を担うリーダーに求められる能力として、テクニカルスキルに加え、周囲と協調しながら組織を作り上げてそれを発展させていく能力としてのノンテクニカルスキルに注目している点は、地域住民の抱える様々な健康問題に幅広く対応できる専門職を育成する上で非常に有効で価値がある。

このような事業運営、目標のもとで養成される人材として、総合診療医のみでなく、地域を基盤として活躍する高度実践看護師が加えられ、地域基盤型高度実践看護プログラムが大学院プログラムの一つに組み入れられることは重要なことである。教育の質とその成果を確かなものにするための取り組みが必要であり、H25年度は、カリキュラムの基盤づくりに充てられた。特にノンテクニカルスキルの中でも、リーダーシップや人材育成力を向上させるために必要な手法や教育学部からの招聘講師によって講演およびコンサルテーションが行われた。地域住民のニーズを把握し支援を組み立てるために必要な能力の育成を、大学院教育において行うためには、研究組織力とFDの強化が欠かせないという視点から、国際的な視座に立った様々な示唆が提供され、専攻におけるFD活動として一定の成果を収めた。また、研究教育交流発表会および教育・病院組織の視察の目的で訪れた国立台湾大学では、医療機関との緊密な連携の下で行われる看護の大学および大学院教育の実例を学ぶ機会を得ることができた。カリキュラムを支える教育組織づくりのための有効な資源を確保できたことになる。

入学生を確保し実際にカリキュラムを遂行することになるH26年度は、前年度に築いた海外との教育研究協力体制を強化すると共に、地域基盤型高度実践看護プログラムのシラバスを遂行し、総合診療医養成プログラム等とのコラボレーションを調整しながら、教育実践を充実させることが課題となる。

昨年度構築したノンテクニカルスキル教育のプログラムを、本年度から実施しており、計画した研修すべてを実施できた。どれも参加型研修であったため参加希望者が多かった研修では、複数回の開催などを行い対応してきた。これまで医療現場ではあまり行われてこなかった分野の研修であることから、総合診療グループの構成員だけでなく、看護専攻の教員・院生、病院職員からも積極的な参加を得ている。参加者からは継続を望む声が多い研修です。来年度以降、事業予算が削減されていく中ではありますが、継続して運営していきたい検討しなければならない課題です。

地域基盤型高度実践看護プログラムでは、学術協定校でもあるイリノイ大学シカゴ校看護学部からの講師招聘も引き続き行うとともに、昨年度の取組みをさらに進めた形で、看護専攻や附属病院看護部とも協力して開催した「アンソニー看護大学教員による『国際看護セミナー』」は、学内外から150名を超える参加者を迎えるなど、地域の看護師教育にも貢献する事業を展開できました。

また、今年度からは、実践的な看護を学ぶ連続ワークショップ「こんなときどうする？ 患者が訴える症状へのアプローチ ～すべての医療職に求められる初期対応～」を開始し、大学院生と病院の看護師が共に学べるもう一つの機会となっています。

横谷 省治

平成25年度は、テレビ会議システムの構築、指導医のスキルアップや他所の視察ができ、次年度以降の本格稼働の準備が整ったと言えます。また、教育プログラムの開発では、ノンテクニカルスキル教育法が先行して進んでいます。初年度としては良好な成果を上げたものと考えます。

次年度は、各教育プログラムの構築、コンテンツの開発に力を注いで、現在の総合診療後期研修医の教育に反映して行くことを望みます。また、教育コンテンツについては、今後の公開を見越して、他者が利用できるように文字化していただくことが重要と考えます。

各教育プログラムの具体的な内容がシラバスにまとめられたことが、平成26年度の1つの大きな成果と考えられています。今後これを実施していく中で、全国のモデルとなるような教育プログラムへ昇華させていければと考えられています。

教育コンテンツについては、本事業で実施した教育講演やレクチャーの資料をグループコンテンツ上で蓄積し、活用を開始しました。「いつでもどこでも学べる教育環境」に一歩近づけたと感じています。

3-9 指導医等を対象としたFD・研修会の実施

事業業コーディネーター、総合診療科教員等を対象としたFDの実施や、ノンテクニカルスキルを含む研修会への参加を通して、すべての教育プログラム・コースが効果的に実施できる体制を整え、維持運用しました。

【マンスリーレビューの開催状況】

マンスリーレビュー開催目的：総合診療医に必要なテクニカルスキルの知識習得を主に行う。地域の医療機関で働く医師および医療スタッフにも公開され、生涯教育をも目的としている。今年度は内科領域のみならず、予防（ワクチン）、小児、歯科など、多領域を包括的に診る総合診療研修の特色が出ている内容になっています。

2014年5月30日（金）

講師：聖路加国際病院 腎臓内科 小松 康宏 先生

タイトル：「腎臓内科・電解質のエッセンス」

内容：聖路加国際病院で腎臓内科部長として活躍され、多くの教育的著書を執筆されている小松先生に「腎臓内科・電解質のエッセンス」について講演して頂きました。多数の参加があり、どのように非常に勉強になりました。

2014年7月11日（金）

講師：市立堺病院 総合内科 藤本 卓司 先生

タイトル：「頸部・胸部の診かたと感染症診療」

内容：市立堺病院で総合内科部長・臨床研修センター長として長年活躍されている藤本先生に身体所見を重視した感染症診療について講演して頂きました。講演会終了後には教育回診を行って頂き、身体診察等を重点的に教えていただきました。

2014年9月25日（木）

講師：新谷歯科医院 歯科 新谷 浩和 先生

タイトル：「高齢者における歯科医科連携」

内容：大田区で訪問診療等も積極的に行われている歯科の新谷先生に「高齢者における歯科医科連携」というテーマでご講演を頂きました。プライマリケア学会、老年医学会等の医科歯科連携をテーマにしたセミナーでご講演をされている先生で、実症例（訪問診療の際のビデオ画像）等を通じて症例検討を行いました。今後の医科歯科連携の発展のきっかけをいただきました。

2014年10月31日（金）

講師：マイファミリークリニック蒲郡 守屋 章成 先生

タイトル：「本当に大事なワクチンの話」

内容：プライマリケア学会でもたくさんのWSをされている守屋先生に「ワクチンのお話」をして頂きました。4V+3C というキーワードで、プライマリケア医にとってワクチン接種の知識の枠組みを広げていただけました。今後は正しい理解を持ち、後進の教育に当たっていきたいと思います。

2015年1月12日（月）

講師：医療法人明雅会 こだま小児科 児玉 和彦 先生

タイトル：「こどもをみる医者が必ず学ぶべきこと、身に付けるべきこと」

内容：家庭医療研修において必修となっている小児科研修ですが、『こどもをみるときに「家庭医だから」とか「小児科医だから」ということを言わない医者を育てる、そしてそういう医者になるのが私のミッションです！』とお話しをお聞きし、これから進んでいく道に自信を持つことが出来ました。

2015年3月13日（金）（予定）

講師：水戸協同病院 総合内科 五十野 博基 先生

タイトル：「ICU up to date（仮）」

内容：東京ベイで集中治療を勉強され、水戸で活躍中の五十野先生に ICU のルーチンおよび up to date についてご講演を予定しています。

【マンスリーレビュー報告（事業 HP 記事より）】

マンスリーレクチャー「みんなのワクチンプラクティス」受講者感想



本日 10 月 31 日、マンスリーレクチャーが開催されました。

タイトルは「みんなのワクチンプラクティス」、講師は「マイファミリークリニック蒲郡の守屋章成先生」でした。

ワクチンかあ…赤ちゃんの頃母子手帳に書いてある通りにやればいいんじゃないの？くらいにしか考えていなかった僕の頭…反省です。実際、ワクチンについての勉強なんて、これまで系統的にしたことはありませんでした。なので、興味深く拝聴さ

せていただきました。

これまで僕のワクチンの研修歴は、小児科研修の時に週に半日ワクチン接種の外来があり、年齢と接種間隔を神経質にチェックして皮下に打つように指導されていた記憶はあります。ただ、自分の技術の未熟さ故にやや皮下深くに接種していたような気がします。

が、「なーんだ、よかったんじゃない」と今日の話を聞いて安心…。

いやいや、技術の未熟さは反省しないとイケませんね。

今回は、ワクチンに関し、制度に関することや、日本ではこうなんだけど、アメリカでは…、などなど、普段は聞けない知らない話をクイズ形式で非常に楽しく聞かせていただきました。2時間の予定だったため、全内容ではなく途中で終了になり非常に残念。またいつかの機会にお聴きしたいと思います。



ワクチンはまだまだ奥が深いなあ…。

再度、守屋先生、こんな素晴らしい講義をしていただいて、本当にありがとうございました。

水戸協同病院、大和クリニック、大森医院への中継も！

(S1 一ノ瀬大地)

【ノンテクニカルスキル研修】

テクニカルスキルだけでなく、総合診療医に求められる組織をマネジメントするスキル：ノンテクニカルスキルを、少人数参加型研修で能動的に学びました。チーム医療実践力、人材育成力、省察的実践力の醸成へつながる研修となりました。

【2014 年度に実施した研修会一覧】

研修会名	開催日	曜日	時間	参加者数	
リーダーシップ&チームビルディング +ミーティングファシリテーション研修 (2日間)	7月26日	土	9:00~18:30	21名	109名
	7月27日	日	9:00~16:30		

コーチング研修+人材育成研修	8月30日	土	9:00~18:00	22名	
忙しい人のための仕事術研修	9月1日	月	17:30~20:30	18名	
コンフリクトマネジメント研修+交渉術	11月15日	土	9:00~18:30	17名	
	11月22日	土	9:00~18:30	9名	
問題解決能力トレーニング研修(2日間)	1月24日	土	9:00~18:30	22名	
	1月25日	日	9:00~16:30		
MBTI:自分の心を理解する	7月13日	日	13:00~18:00	11名	50名
MBTI:自分の心を理解する 基本編(予定)	3月8日	日	9:00~13:00	19名	
MBTI:自分の心を理解する タイプダイナミクス&コミュニケーション編(予定)	3月8日	日	14:00~18:00	20名	
TEAMS*-BP 業務の改善の仕方	6月21日	土	9:00-17:30	7名	76名
	12月21日	日	9:00-17:30	11名	
TEAMS*-BI 仕事の教え方	9月20日	土	9:00-17:30	15名	
	12月23日	火・祝	9:00-17:30	10名	
TEAMS*-BR 人との接し方	10月4日	土	9:00-17:30	11名	
	10月12日	日	9:00-17:30	9名	
TEAMS*-BP 業務の改善の仕方 ファシリテーター研修(2日間)	11月8日	土	9:00-17:30	7名	
	11月24日	月・祝			
TEAMS*-BI 仕事の教え方 ファシリテーター研修(2日間・予定)	2月11日	水・祝	9:00-17:30	6名	
	2月14日	土			

*: TEAMS (Training for Effective & efficient Action in Medical Service) は、トヨタの「K A I Z E N」のもとになったビジネススキル研修を、筑波大学で医療用に改変した研修です。

【ノンテクニカルスキル研修報告(事業HP記事より)】

チームビルディング&リーダーシップ研修

7/25-26にチームビルディング&リーダーシップ研修が行われました。

アクリート・ワークスの守屋先生、大曾根先生、三木先生を講師にお招きいたしました。2人から10人程度の様々な構成人数での成果物の作成、視座を変えるような様々なワークを通して、どのようにチームが作られていくのか、リーダーシップやファシリテーションはなぜ重要なのか、俯瞰することの重要性について実体験を通して学ぶことが出来ました。



医療現場ではチームの一員として、あるいは医師-患者・家族関係の中で構成メンバーの能力と協力を引き出しながら、挑戦を要する仕事を進めていくリーダーシップが総合診療を提供する医師に求められることも多いですが、リーダーだけでなく全ての構成メンバーが研修内で扱ったような視点を持つことで、グループ内の議論が上手くまとまり、より建設的・創造的な話し合いに時間を利用できることを実感いたしました。

2日間とやや長時間の研修ではありますが、ぜひ今回参加できなかった方も、機会を見つけて参加いただければと思います。おすすめです。

(平成26年8月18日 地域医療教育学 吉本 尚)

ノンテクニカルスキル研修～TEAMS-BI～



総合診療医に必要なスキルは医学的なことだけではなく、リーダーシップであったり、教育のスキルであったり、様々なスキルが必要です。筑波総診では、そんなノンテクニカルスキル（医療知識・技術だけではなく、組織人として身につけておくべきスキル）の研修にも力を入れており、今年度も多様な研修を行っています。

先日、ノンテクニカルスキル研修の一つであるTEAMS-BIが行われました。TEAMSとは有名なトヨタの「カイゼン」のもとになったと言われているTWIというビジネススキルを、筑

波大学附属病院で医療用に改変したものです。TEAMS には業務改善の仕方や人の扱い方などが含まれますが、今回の BI は人の教え方。

「何で教えたのにできないんだよ」とか「何で理解できないんだよ」と思うときがあっても、それは教える側が教え（られ）ていないからかもしれません。教え方には様々なコツがあり、今回はそのコツを身近な簡単な作業を教える場面を例にとって学習しました。教わる側の緊張をほぐしたり、出来ていることを出来ているとしっかり伝えることは教育の上で大事ですが、忙しい日常でついつい忘れがちだなと思いました。

この研修、総診のレジデントとスタッフだけでなく、筑波大学附属病院内の様々な職員の方も多数参加。



多職種でチームを組んで勉強すると、お互いの職種について知らなかったことがたくさんあり、どんどんと会話が弾み、中には連絡先を交換してプチ勉強会を企画するに至った方も。多職種で研修を行うと、色々な副産物もあるようです。

(平成 26 年 9 月 24 日 S 1 稲葉 崇)

人への接し方研修 TEAM-BR が開催されました！

筑波大学附属病院では、「次世代の地域医療を担うリーダーの育成」事業に含まれているノンテクニカルスキルの人材育成力養成の一環として、様々な講習を行っています。

http://www.hosp.tsukuba.ac.jp/mirai_iryu/

TEAM (Training for Effective & efficient Action in Medical Service) とは、産業訓練として広く普及している TWI (Training Within Industry) を医療現場に応用したもので、①教えるスキル、②改善するスキル、③人と接するスキルの 3 つに分けられています。今回 10 月 4 日に開催されたのは、BR (Better Relations) ということで、③の人接するスキルに関する講習でした。なお、この TEAM-BR はトヨタの人材育成「KAIZEN」の手法でもあります。

チーム医療教育「人材育成エキスパートチーム」主催
「人との接し方」研修会を開催します

社会人に必須の「人との接し方」が、世界的にも注目を集めているトヨタの人材育成「KAIZEN」の手法で学べます。
 人との関係をよくするための技能を学びます。少人数体験型研修なので、確実に身に付きます。
 筑波大学附属病院教職員の方なら、どなたでもお申し込みいただけます。

開催案内

日時：平成26年10月4日(土) 9:00 ~ 17:30
 平成26年10月12日(日) 9:00 ~ 17:30

場所：地域医療システム研究棟 シミュレーション・ラボ

内容：人との関係をよくするための技能、事前対策と事実にもとづく議題の調整の仕方学びます。

対象：附属病院全教職員(定員10名(申込み先着順))

申込み：内線3101までお電話または primaryemd_tsukuba.ac.jpまでメールをお送りください。

すでに申込み案内に達したため、キャンセル待ち受付となり得ます

研修等のお問合せ・お申込み
 URL: <http://www.cesat.tsukuba.ac.jp>
 電話: 904-kompauppo
 筑波大学附属病院 総合臨床教育センター
 総合臨床教育課事業推進支援室(担当: 坂西)
 / Tel: 029-853-3101 / E-mail: primary@tsukuba.ac.jp

今回のトレーナーは日本産業訓練協会の山口和人さんで、ファシリテーターは筑波大学附属病院総合臨床教育センターの稲葉めぐみさんでした。午前中は TEAM-BR に関する事例も含めた、人に関する問題の解決方法を学ぶ授業が中心で、人との関係をよくするための基本心得や、職場での問題の扱い方について学びました。印象的であったことでは、「機械と違って人間には取扱説明書がない」、「個人を仕事だけでなく、家庭や健康状態など多面的にとらえる」ということでした。人を全人的にとらえるという姿勢は、総合診療的だなと感じずにはいられませんでした



た。

午後からは2グループに分かれて、各人から提示された問題に対して具体的に対応を協議しました。出席者は医師、看護師でしたが、各職場毎に様々な問題があり、解決方法についての議論が盛り上がりました。場当たりの解決方法ではなく、きちんとした方法でできるだけ円満に問題を解決したいものですね。

(平成26年10月4日 筑波大学 中澤一弘)

【参加者アンケートより】

Q1 本日ご参加の講演会等で、何を学びましたか。

- ・信頼関係の大切さ。伝えることの大切さ。ファシリテーションによるチームの活性化。ダイナミクスを起こすための思いを伝えることの大切さ。Passion を持ち、伝え合う。傾聴の深さ。Lv. 2がある。(リーダーシップ&チームビルディング+ミーティングファシリテーション研修)
- ・コーチングでは目的を明確化することが大切。自分が変わることが大切であることに気付いた。フィードバックの難しさ。(コーチング研修+人材育成研修)
- ・コーチングの理論と実践方法、大切なのは自分の気持ちやかかわり方に関する考えなのだと学んだ。明日からすぐに役立つ内容で、とても面白かった。(コーチング研修+人材育成研修)
- ・コントロール可能な task の生産性を上げるための tool。今はコントロール不能な業務の量が多く、それで疲労して他の task が出来ていない状況ですが、整理することで効

率を上げられると感じました。(忙しい人のための仕事術研修)

- ・相手の立場に立つ ニーズを知る 中立に立つ、相手の立場を考えているつもりでも立って考えてみないと見えないものがある、色々な立場で相手のニーズを考えてみたい (コンフリクトマネジメント研修+交渉術)

Q2 本日の講演会（レクチャー）への感想や、教育プログラムへのご意見をお聞かせください。

- ・今後も続けて欲しい。体系的に受けられるプログラムとなるとよいと思います。(リーダーシップ&チームビルディング+ミーティングファシリテーション研修)
- ・他職種参加できる今回のような形式がよかった。リーダーシップ&チームビルディング+ミーティングファシリテーション研修)
- ・ワークの中で自分の事を話すことが多く、なかなか大変でしたが、それも話すトレーニングになっているな、と感じました。(コーチング研修+人材育成研修)
- ・いつも後回しにしていることを時間をかけて考えることができました。1つ1つを改善していくことで、「時間がない」ということを減らしていけるとと思います。(TEAMS-BP業務の改善の仕方研修)



8月30日
コーチング研修+人材育成研修
の様子



【国際化支援】

国際化支援事業目的：家庭医療のコア領域、総合診療・家庭医療の分野で先行する海外の歴史や現状を知ることによって、我が国の総合診療に関する今後について考えるきっかけを得ています。上記領域の学生、研修医、指導者の学習となるとともに、英語スライドを用いることで英語のプレゼンに慣れ、国際的な発信力を持った総合診療医の育成につながっています。

担当講師：大西恵理子（オレゴン健康科学大学家庭医療科）

No	開催日	対象	実施内容	参加者数(人)
1	6月10日	医学生対象	英語で医療面接	10
2	6月11日	初期研修医、後期研修医、指導医対象	Principle of Family Medicine"Access to care" ①	10
3	6月11日	医学生対象	医学生へ英語で医療面接①	14
4	6月11日	初期研修医、後期研修医対象	Principle of Family Medicine"Access to care" ①	15
5	6月12日	初期研修医、後期研修医、指導医対象	Principle of Family Medicine"Access to care" ②	10
6	6月12日	医学生対象	医学生へ英語で医療面接②	10
7	6月13日	初期研修医、後期研修医対象	Principle of Family Medicine"Access to care" ②	10
8	6月14日	初期研修医、医学生対象	つくば家庭医・病院総合医プログラム説明	30
9	6月16日	初期研修医、後期研修医、指導医対象	Principle of Family Medicine"Access to care" ③	15
10	6月16日	医学生対象	医学生へ英語で医療面接③	11
11	10月20日	医学生対象	英語で医療面接	8
12	10月21日	医学生対象	個別医療面接	2
13	10月21日	初期研修医、後期研修医対象	Principle of Family Medicine"Contextual care" 前半	14
14	10月22日	医学生対象	個別医療面接	4
15	10月22日	医学生対象	英語で医療面接	10

16	10月23日	医学生対象	個別医療面接	3
17	10月23日	医学生対象	教育講演：医療倫理～英語で Case discussion	9
18	10月24日	医学生対象	個別医療面接	2
19	10月24日	初期研修医、後期研修 医対象	Principle of Family Medicine "Contextual care" 後半	7
20	10月25日		総合診療科 秋季セミナー	33
21	2015年 1月13日	医学生対象	英語で医療面接	2
22	1月13日	医学生対象	個別医療面接	1
23	1月14日	医学生対象	英語で医療面接	1
24	1月14日	医学生対象	個別医療面接	1
25	1月15日	初期研修医、後期研修 医対象	家庭医療の歴史レクチャー①	10
26	1月15日	医学生対象	個別医療面接	2
27	1月16日	初期研修医、後期研修 医対象	家庭医療の歴史レクチャー②	10

【英語セッション】

目的：総合診療医に必要な英会話およびライティングのトレーニングを行う。これによって国際学会発表等リサーチ発信を海外に向けて行うことが出来る。また、海外から日本に働きに来た患者さんのような日本語ができない方の対応の際に、英語でのコミュニケーションギャップを最小限にすることができる。総合診療医として医療面接は重要な要素であり、今後の日本にとって必要な内容である。開催日は、基本的に火曜日 16:00-17:00、金曜日 18:30-19:30 であり、子育て中の女性医師にも参加できるように配慮した。

担当講師：プリジョン・フランク（バーナード英会話スクール 校長）

回	開催日	主な実施内容	参加者数(人)
1	2014年 8月1日	リスニング、プレゼンテーション	11

2	8月8日	リスニング、プレゼンテーション	4
3	8月22日	リスニング、プレゼンテーション	6
4	8月29日	リスニング、プレゼンテーション	4
5	9月2日	リスニング、プレゼンテーション、発音	5
6	9月12日	リスニング、プレゼンテーション、発音	4
7	9月16日	リスニング、プレゼンテーション、発音	7
8	9月30日	リスニング、プレゼンテーション、発音	4
9	10月10日	リスニング、プレゼンテーション、リズム	2
10	10月14日	リスニング、プレゼンテーション、リズム	4
11	10月24日	リスニング、プレゼンテーション、医療面接	8
12	10月28日	リスニング、プレゼンテーション、医学面接	6
13	11月7日	リスニング、プレゼンテーション、医学面接	7
14	11月11日	リスニング、プレゼンテーション、リンクング	5
15	11月21日	リスニング、プレゼンテーション、リンクング	3
16	11月25日	リスニング、プレゼンテーション、リンクング	5
17	12月2日	リスニング、プレゼンテーション	6
18	12月12日	リスニング、プレゼンテーション	4
19	2015年 1月9日	リスニング、プレゼンテーション、英文メール	4
20	1月13日	リスニング、プレゼンテーション、英文メール	1
21	1月23日	リスニング、プレゼンテーション、英文メール	1
22	1月27日	リスニング、プレゼンテーション、英文メール	7

※ 2月以降も週2回のペースでの開講を予定しています。

【「地域基盤型高度実践看護師養成プログラム」グローバル化のためのFD活動】

筑波大学国際看護セミナー

日時:2014年5月30日(金)17:30-19:30

場所:筑波大学附属病院けやきプラザ



講演1の講師は、聖アンソニー看護大学学部長のエリザベスカーソン先生で「アドバンスケアプランニング：患者と共に決定する終末期のケア」に関するお話でした。

講演2の講師は、聖アンソニー看護大学のダイナダーモディー先生で「クリニカルナースリーダーの役割とその成果」に関するお話でした。

専攻長より、聖アンソニー看護大学からお越しいただいた4人の先生（左から竹熊カツマタ麻子准教授、リンダマティソン准教授、ダイナダーモディー講師、エリザベスカーソン学部長）にお礼の言葉。



FD講演会「聖アンソニー看護大学教員によるAPN養成教育のコンサルテーション」

日時:2014年5月31日(土)9:30-11:30

場所:筑波大学4B棟会議室104



看護科学専攻の教員に対して、高度実践看護師（APN）養成教育に関するコンサルテーションが行われました。

学術協定校招聘講師 記念講演

日時:2014年9月28日(日)15:30-17:30

場所:筑波大学 4B 棟講義室 209

講師:Holli A. DeVon, PhD, RN, FAHA, FAAN(イリノイ大学シカゴ校看護学部准教授)

「米国における看護実践博士(DNP)課程授業 研究成果の実践への応用」



DeVon 先生は、アメリカ看護協会、アメリカ心臓学会看護部門で理事を務める心疾患看護の研究と教育の第一人者です。

看護実践博士（DNP）課程の講義を実践していただきました。

熱心に教員や学生に語りかける DeVon 先生。



DNP と PhD の違いについて説明。多くの質問がでて、時間を延長して終了となりました。最後に DeVon 先生を囲んで。

国際交流座談会

日時:2014 年 10 月 1 日(水)10:30-12:30

場所:筑波大学 4B 棟 104

プレゼンター:Holli A. DeVon, PhD, RN, FAHA, FAAN(イリノイ大学シカゴ校看護学部准教授)

話題:看護系大学院における高度実践家(DNP) & 研究者(PhD)養成の教授法



University of Illinois at Chicago の Holli 先生より、UIC と中心とした米国の看護系大学および大学院教育と研究の取り組みの実際について、お話しいただきました。終始にこやかに、時折ジョークも交えてお話しされる Holli 先生。日本の看護教員の教育と研究の現状についても、関心をお持ちで、時にアドバイスもいただきました。有意義な FD 研修会でした。Holli 先生、委員の先生方、ありがとうございました。

4. 参考資料

- ・ 事業成果ポスター（未来医療研究人材養成拠点形成事業「リサーチマインドを持った総合診療医の養成」 第2回 合同公開フォーラム（2015年1月30日・大阪）にて発表）



開かれた未来へ。
筑波大学
University of Tsukuba

『次世代の地域医療を担う リーダーの養成』

事業の趣旨

- **次世代の地域医療を担うリーダーの養成**
本学は、これまで多くの家庭医療専門医を輩出してきましたが、本事業では「次世代の地域医療を担うリーダーの養成」をテーマとして掲げ、研修体制をさらに強化します。
- **確実に人材を養成できる体系的な研修プログラム**
次世代の地域医療に対応できる高い専門能力を備えた総合診療専門医を養成し、さらにその後のキャリアについても豊富な選択肢を用意して、「地域医療を担うリーダー」を体系的・段階的に養成できるシステムを構築します。
- **最適な教育フィールドと強力なコーディネート体制**
地域医療機関に大学教員を派遣する本学独自のシステムである地域医療教育センター・ステーションを中心として、最適な教育環境の下で研修できる体制を構築します。

本事業を通して大学・地域循環型のキャリアパスを確立し、優れた総合診療医を数多く養成するとともに、そのノウハウを確立して全国に広く情報発信することを目指します。



（「リサーチマインドを持った総合診療医の養成」第1回 合同公開フォーラムの様子）

本事業で養成する総合診療医像

- **テクニカルスキルとノンテクニカルスキル**
総合診療医には、臓器や年齢に偏らず保健・医療・福祉にわたり幅広く対応できる臨床能力や研究能力である「テクニカルスキル」に加えて、さまざまな職種と連携して多様な問題に対応するためのコミュニケーション・チームワーク・リーダーシップなどの「ノンテクニカルスキル」も兼ね備えていることが求められます。
- **6領域をバランス良く備えた人材を養成**
本事業では、図に示した6つの領域をバランス良く備えた人材を養成します。
この能力を修得するために、産業界など、医療界以外で実践されているノウハウも積極的に取り入れ、次世代の地域医療を担うリーダーを確実に養成できるプログラムを提供していきます。



段階的に明確な人材養成目標に向かう体系的な教育プログラム

最終的なゴール「次世代の地域医療を担うリーダー」に到達するために、学習者のレベルに合わせて、3段階の研修プログラムとキャリア支援を、体系的に提供します。

STEP1 学生・研修医 総合診療入門プログラム

将来総合診療医をめざす学生・研修医を対象とした、登録制の入門プログラムです。
年間を通して週1回の講義・演習+長期休みを利用した実習(学生のみ)の形で運営され、登録した学生・研修医には一人一人担任教員がついて定期的に面談を行い、総合診療医としての基礎能力の修得とキャリアアイディアの醸成を図ります。
研修内容: 臨床推論講義・演習、在宅ケア・緩和ケア実習、多職種カンファレンス実習など

STEP2 後期研修医 次世代対応型 総合診療専門医養成プログラム

全国有数の研修プログラムとして多くの家庭医療専門医を輩出してきた本院の実績を生かし、新しい総合診療専門医制度にいち早く対応するとともに、在宅ケアや緩和ケアなどの次世代の総合診療医に求められる診療能力を大幅に強化した研修プログラムを導入します。

家庭医療専門医 (総合診療専門医) 取得		地域医療推進士取得	
研修コース	研修期間	研修科目	研修科目
在宅コース (在宅診療教育ステーション)	4年制	小児、婦人科、小児科、小児科、小児科	在宅診療、在宅診療、在宅診療
分科コース	2年制	家庭医療、家庭医療、家庭医療	家庭医療、家庭医療、家庭医療
連携コース	2年制	家庭医療、家庭医療、家庭医療	家庭医療、家庭医療、家庭医療

※本プログラムで開発された教育コンテンツを地域の医療者向けに再編成し、e-learningで提供するインテンシブコースを併設する。

STEP3 総合診療専門医 総合診療医フェロープログラム 大学院プログラム

総合診療専門医取得後、さらに専門的なスキルを修得し、将来の地域医療を担うリーダーを養成するプログラムです。
フェロープログラムでは総合診療専門医に加えて、一つの領域をさらに掘り下げて学びます。
大学院プログラムでは、地域の現場からの疑問を科学的方法で明らかにし、エビデンスとして発信できるPhysician Scientistを育成します。また、総合診療医と連携を成し、リーダーシップを発揮できる地域医療高度実践看護師を養成するプログラムを設置します。

フェロープログラム

- 緩和医療**：緩和医療専門医を取得し、質の高い緩和ケア(在宅含む)が提供できる。
- 在宅医療**：在宅医療専門医を取得し、看取りを含む高度な在宅医療が提供できる。
- プログラム責任者養成**：プログラム責任者として自ら研修プログラムを立ち上げ、運営できる。
- 多職種連携教育**：多職種連携の臨床的育成を促した上で、その教育を計画・実施できる。
- ヘルスマンモーション**：健康増進・疾病予防に関する教育を自ら企画・実施でき、人材養成ができる。

大学院プログラム

- 地域医療教育学研究**：地域における疑問を、科学的方法で明らかにし、evidenceとして発信できる。
- 地域医療高度実践看護**：地域医療に豊富な東北北もたらすケアプログラムを自らデザインし養成できる。

54

やるなら本気で。

IMAGINE THE FUTURE

地域医療の最前線で質の高い教育・研究を展開

地域医療で活躍できる人材を養成するために、地域医療のフィールドを持つ病院・診療所と、教育研究機能を持つ大学が緊密に連携して、最適な地域医療教育・研究の「場」を構築します。

■ ICT（情報通信技術）を活用した教育ネットワークの構築

大学と地域医療教育センター・ステーション双方で、ICT（情報通信技術）を活用した遠隔テレビ会議システムを導入し、県内全域に散らばる教育拠点間においても、様々な教育プログラムを同時に受講できる環境を実現しています。中心となる大学には、専任のスタッフを配置して、「いつでも」「どこでも」先進の知識を学び、キャリア支援を受けられるシステムを導入しました。



(遠隔TV会議システムを用いたセミナーの様子)

■ 最適な地域医療フィールドに大学の教育機能を展開

本学では、全国に先駆けて地域医療の第一線に大学教員を実際に派遣して地域医療教育の充実を図る「地域医療教育センター・ステーション」を導入しました。現在、60名を超える教員が配置され、地域医療の現場で教育にあたっています。全体のコーディネータは、全国でも屈指の規模と実績を持つ教育支援組織である総合臨床教育センターが担当しています。

このシステムを基盤として、総合診療医の教育環境、キャリア支援体制をさらに強化しています。

■ 体系的なノンテクニカルスキル研修の実現

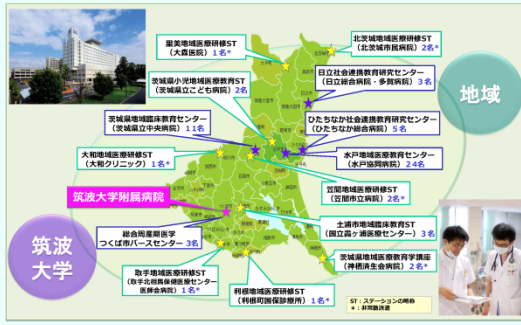
総合診療医に求められるコンピテンシーを明確にし、それらを身に付けるために必要な体系的なノンテクニカルスキル研修プログラムを構築しました。研修会には、多職種病院スタッフや大学院生も参加しています。

2014年度に実施したノンテクニカルスキル研修

総合診療医に求められる組織をマネジメントするスキルを、少人数参加型研修で能動的に学んでいます。

研修会名	開催日	曜日	時間	参加者数
TEAMS™-BP(Better Process) 業務の改善の仕方	8月21日	土	9:00-17:30	7名
TEAMS™-BI(Better Instruction) 仕事の教え方	8月21日	土	9:00-17:30	11名
TEAMS™-BR(Better Relations) 人との接し方	8月28日	土	9:00-17:30	10名
TEAMS™-BP(Better Process) 業務の改善の仕方・ファンリテーター養成研修(2日間)	10月4日	土	9:00-17:30	11名
TEAMS™-BI(Better Instruction) 仕事の教え方・ファンリテーター養成研修(2日間・予定)	10月18日	土	9:00-17:30	9名
MBTI:自分の心を理解する	11月8日	土	9:00-17:30	7名
MBTI:自分の心を理解する	11月24日	土	9:00-17:30	7名
MBTI:自分の心を理解する	2月11日	水	9:00-17:30	6名
MBTI:自分の心を理解する	2月14日	土	9:00-17:30	6名
MBTI:自分の心を理解する	7月13日	日	13:00-18:00	11名
リーダーシップ&チームビルディング+ミーティングファシリテーション研修(2日間)	7月30日	土	9:00-18:30	21名
コーチング研修+人材育成研修	7月27日	日	9:00-18:30	21名
忙しい人のための仕事術研修	8月30日	土	9:00-18:00	22名
コンフリクトマネジメント研修+交渉術	9月1日	月	17:30-20:30	18名
問題解決能力トレーニング研修(2日間)	11月15日	土	9:00-18:30	17名
MBTI:自分の心を理解する 基本編(予定)	11月29日	土	9:00-18:00	9名
MBTI:自分の心を理解する タイプダイナミクス&コミュニケーション編(予定)	1月24日	土	9:00-18:30	22名
MBTI:自分の心を理解する	3月25日	日	9:00-18:30	22名
MBTI:自分の心を理解する	3月4日	日	9:00-18:00	10名
MBTI:自分の心を理解する	3月8日	日	14:00-18:00	20名

* TEAMS(Training for Effective & Efficient Action in Medical Services)は、1999年「MAGAZINE」社からなるノンテクニカルスキル研修を、筑波大学で医療界に導入した研修です。



筑波大学から全国に発信—次世代の地域医療を担うリーダーの養成



(多彩な公開プログラム)

本取組では、大学・地域循環型のキャリアパスを確立します。学生の段階からシームレスに学べる教育プログラムを構築し、これを大学で実施する体系的な教育プログラムの基本とするとともに、地域で多くの患者に向き合いながら医師としての経験を積み重ねる仕組み＝地域医療教育センター・ステーションにおいても展開します。大学と地域が協力して総合診療医養成に取り組めます。

さらに、医療に特化したノンテクニカルスキル教育プログラムの開発により、チーム医療実践力・人材育成力・省察的実践力等の能力を高める取組を推進しています。

こうした教育システムの構築により、将来の超高齢社会における地域包括ケアをリードできる、優れた総合診療医を数多く養成するとともに、そのノウハウを全国に広く情報発信することを目指しています。

取組みの一例

総合診療★家庭医全国公開セミナー in Tsukuba

11/12(土)、全国の医学生など19大学の学生、高校生、医師を含む計61人が参加した本セミナーは、総合診療医に強い関心がある12人の医学生と25人の多職種の講師陣により運営されました。「患者中心の医療の方法」、「緩和ケア」、「初期救急」、「多職種連携」、「総合診療医のキャリア」、「医療面接」等のワークショップを実施し、参加者が「自分たちは地域でどのように役立てるのか」について熱い議論を展開しました。

【参加者からの感想(一部)】

- ・総合診療医についてのイメージを深めることができた。
- ・女性医師のキャリア形成のお話をきけて有意義だった。
- ・それぞれの専門職が持つ視点は様々でも刺激を受けた。
- ・学内のみならず、総合診療に興味がある全国の仲間が増えることに大きな意義があると感じた。



IMAGINE THE FUTURE.

・表彰等一覧

No.	受賞時期	受賞者名	表彰名称	受賞テーマ等
1	2014年5月	浜野 淳	WONCA Asia Pacific Regional Conference 2014 優秀ポスター賞	「The risk factors and features of inappropriate prescribing among elderly home care patients in Japan」
2	5月	高木 博	日本プライマリ・ケア連合学会 平成25年度優秀論文賞 英文誌部門	「Diagnostic Characteristics of Symptom Combinations over Time in Meningitis Patients」 (General Medicine 14:119-125, 2013)
3	10月	吉本 尚	「明日の象徴」(公益社団法人全日本病院協会、一般社団法人日本病院会、サノフィ株式会社)	

【受賞報告（事業 HP 記事より）】

浜野 淳先生 優秀ポスター賞を受賞



浜野 淳先生が 2014 年 5 月にマレーシアで開催された WONCA Asia Pacific Regional Conference 2014 で発表された「The risk factors and features of inappropriate prescribing among elderly home care patients in Japan」が、優秀ポスター賞を受賞されました！おめでとうございます！！素晴らしいですね！ますますのご活躍を期待して

います！！

(2014年10月21日 スタッフ 前野貴美)

高木 博先生 優秀論文賞(英文誌)受賞

5月10-11日は、岡山にて第5回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会が開催されました。我らが高木 博先生が 優秀論文賞 (英文誌) を受賞され、その授賞式もこの大会で行われました。

英文誌：

「 Diagnostic Characteristics of Symptom Combinations over Time in Meningitis Patients 」 (vol.14, no.2)

著者：高木 博 、他 (筑波大学総合診療グループ 筑波大学大学院人間総合科学研究科)



これに続きたいですね！

次回のプライマリ・ケア連合学会は、筑波で行われます。もちろん大会長は前野哲博先生。

準備も大変になるかと思いますが、いい学術大会になるように、一致団結して企画・実施したいと思っています。

(文責 堤 円香)

関連情報：

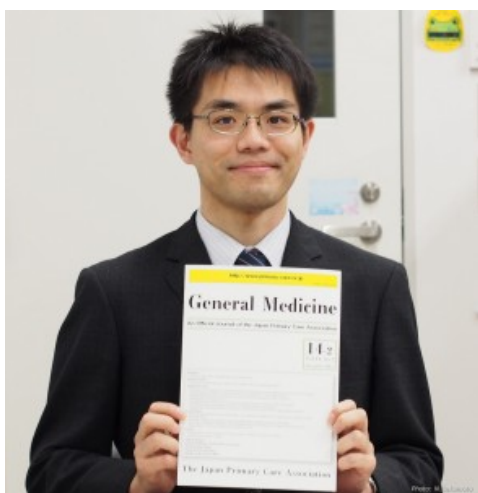
『大学院4年の高木 博先生の細菌性髄膜炎の診断における初診時臨床情報の操作特性に関する論文が General Medicine に掲載されました！』

大学院地域医療教育学分野博士課程4年の高木 博先生の論文 「Diagnostic Characteristics of Symptom Combinations over Time in Meningitis Patients」 が、General Medicine 14:119-125, 2013 にアクセプトされました！

https://www.jstage.jst.go.jp/article/general/14/2/14_119/_article

この研究は、プライマリ・ケア現場の急性髄膜炎における、病歴などの臨床情報からの診断をテーマとしたもので、細菌性髄膜炎と無菌性髄膜炎の鑑別に おける時間経過を考慮した初診時臨床情報の操作特性を検討したものです。この研究では、髄膜炎が疑われる患者で、受診時に発熱出現後3日以上経過して、かつ意識障害が認められない場合、最終診断が細菌性髄膜炎である可能性は極めて低いことが示されました。

プライマリ・ケア医が遭遇する髄膜炎のほとんどは、対症療法のみで自然軽快する無菌性髄膜炎であり、どのような患者に細菌性髄膜炎を疑って髄液検査 を施行するのか、その判



断に苦慮することも多いと思います。結果は、プライマリ・ケアの臨床の現場で急性髄膜炎の診断および髄液検査施行の適応の判断の際 に活用できるのではないかと考えられました。

筑波メディカルセンター病院での多忙な臨床・教育と研究との両立は大変だったと思いますが、それを乗り越えここまでこられたのは高木先生のご努力の成果だと思います。高木先生のこれからのますますのご活躍を期待しております。

論文が掲載された雑誌とともに。 撮影：阪本直人

(筑波大学大学院地域医療教育学分野 前野貴美)



本事業コーディネーターの吉本 尚 講師が 「明日の象徴」を受賞しました♪



プレゼンターは審査委員のお一人
宇宙飛行士の向井千秋さん

「明日の象徴」は、公益社団法人全日本病院協会、一般社団法人日本病院会、サノフィ株式会社が共催し、公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本看護協会、福祉自治体ユニット

が後援する賞で、その顕彰のサブタイトルを「健やかな日本の明日を築く、若い世代のイノベーション追求を称える」としています。

平成 23 年に東日本大震災の後、各地域における復興へ向けた取り組

「明日の象徴」は、医療、保健、ライフサイエンスの分野で活躍している 35 歳以下の期待の精鋭の活動を顕彰いたします。

若い人々の活動に光を当てることで、若い世代全体にイノベーション追求の機運が広がること、またそれを奨励、促進する環境を醸成することが目的です。

イノベーションを通じて国民の健康を促進し、健やかな日本の明日を築きます。また、やる気ある優秀な人材を育て、世界的な競争力を高め、産業の育成を目指します。

(「明日の象徴」HP より転載)



イメージキャラクター
ジェネラルT先生

みの中で、多大なる貢献をされてきた方々を顕彰した「希望の象徴」、翌年の「復興の象徴」を継承する意味深い賞で、「明日の象徴」としては今回が第3回となります。

受賞した吉本尚講師は、「このような素晴らしい賞をいただき、大変うれしく思います。また本受賞に際し、御所にて拝謁の栄を賜り、天皇皇后両陛下と15分ほど総合診療、地域医療を担う人材の重要性について意見交換させていただく機会を得ました。この事は、日本の総合診療／家庭医療分野の関係者に活力を与えていただく機会となったと確信しております。私自身、総合診療、地域医療に貢献する人材の育成により一層励み、住民の方々のお役に立てればと心より思っております。」と力強く、笑顔でコメントされました。

授賞式に出席の本事業推進責任者の前野哲博教授は、「推薦者の紀伊國献三先生（笹川記念保健協力財団会長、筑波大学名誉教授）や審査委員の向井千秋さん（JAXA 宇宙医学研究センター長、宇宙飛行士）を始めとした多くの関係者の皆様から、家庭医療や総合診療への大きな期待が示され、本院の事業が果たす役割の重要性を改めて認識する場となりました。」と話されました。

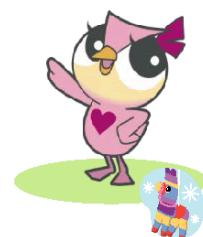
吉本講師の受賞者紹介においても、「母校の講師として、かつ文科省拠点形成事業「次世代の地域医療を担うリーダーの養成」の事業コーディネーターとして、地域の実態を十分に把握し、地域における包括的ケアの実行ができる医療従事者の育成と継続的成長モデルの実現が期待されている」と記され、**本事業の今後の推進に弾みのついた受賞**でした。

※「明日の象徴」については、以下 URL をご参照ください。

<http://www.ashitanoshochu.com/2014/0924/143004>



左から、審査委員の向井千秋さん（JAXA 宇宙医学研究センター長）、吉本尚講師、推薦者の紀伊國献三先生（笹川記念保健協力財団会長）



5. 総合診療医養成事業推進支援室員一覧

平成 26 年度

役名	氏名	職または所属
----	----	--------

申合せ第 3 項第 1 号(総合臨床教育センター部長)

室長	前野 哲博	教授、総合臨床教育センター部長
----	-------	-----------------

申合せ第 3 項第 2 号(病院長)

	松村 明	病院長、医学医療系教授
--	------	-------------

申合せ第 3 項第 3 号(教育を担当する副病院長)

	原 尚人	副病院長、医学医療系教授
--	------	--------------

申合せ第 3 項第 4 号(総合臨床教育センター部長が指名する教職員)

	小林 裕幸	医学医療系教授、水戸地域医療教育センター副部長
副室長	瀬尾 恵美子	病院教授、総合臨床教育センター副部長
	濱野 淳	診療講師(総合診療グループ)、医療連携患者相談センター副部長
	水野 道代	医学医療系教授(臨床看護学)
	横谷 省治	医学医療系講師(北茨城地域医療研修ステーション)
	吉本 尚	医学医療系講師(事業コーディネーター)